

## 第2部 アンケート調査結果

### 第1. 実施概要

#### 1 調査対象及び対象者数

- (1) 児童扶養手当を受給する板橋区民
- (2) 調査対象者数：1,000人(無作為抽出)

#### 2 調査の方法

郵送による配布、回収

#### 3 調査票回収結果

調査票発送数	1,000件
調査票回収数	363件
有効回収率	36.3%

#### 4 調査期間

平成29年7月27日 ～ 平成29年8月31日

#### 5 調査項目

- (1) 属性
- (2) 経済・就業状況(収入、就業状況、暮らしの状況等)
- (3) 親の生活状況等(子育ての状況、社会との関わり等)
- (4) 支援制度の認知度と利用状況等(行政が用意している制度に対する認知度と利用状況、利用できなかった理由)
- (5) 子どもの生活状況等(子どもの社会との関わり、子どもの生活態度、子どもにかかる費用等)
- (6) 今後必要と思う支援など(必要な支援策、知りたい情報等)

#### 6 「第2. 調査結果」の表示について

- (1) 「第2. 調査結果」に、アンケート調査の結果を百分率(%)で示した。百分率は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで示した。
- (2) 各設問の回答者の総数を「N=〇〇」で、各選択肢の選択者の内数を「n=△△」でそれぞれ示した。
- (3) 複数の選択肢を選択できる設問の場合や、四捨五入の処理の関係で、各選択肢の百分率の合計が100%にならないことがある。

## 第2. 調査結果

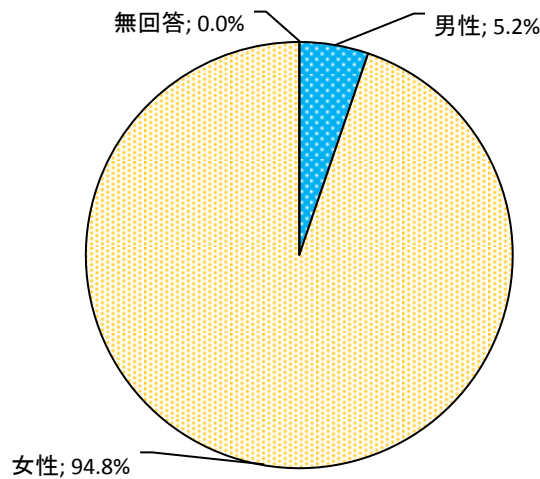
### 1. 属性

#### 1-1. 回答者の基本属性

##### (1) 性別 (問 1-1)

回答者の性別は、「女性」が94.8%を占め、「男性」は5.2%となっている。

図表1 回答者の性別

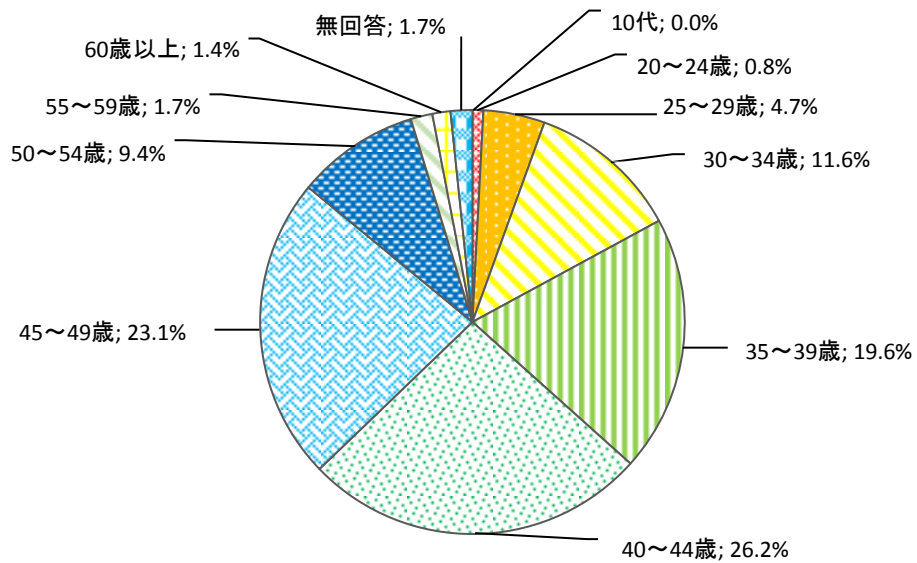


N = 363

##### (2) 年齢 (問 1-2)

回答者の年齢は、「40～44歳」が26.2%で最も多く、「45～49歳」が23.1%で次いで多く、「35～39歳」が19.6%、「30～34歳」が11.6%が続いている。

図表2 回答者の年齢

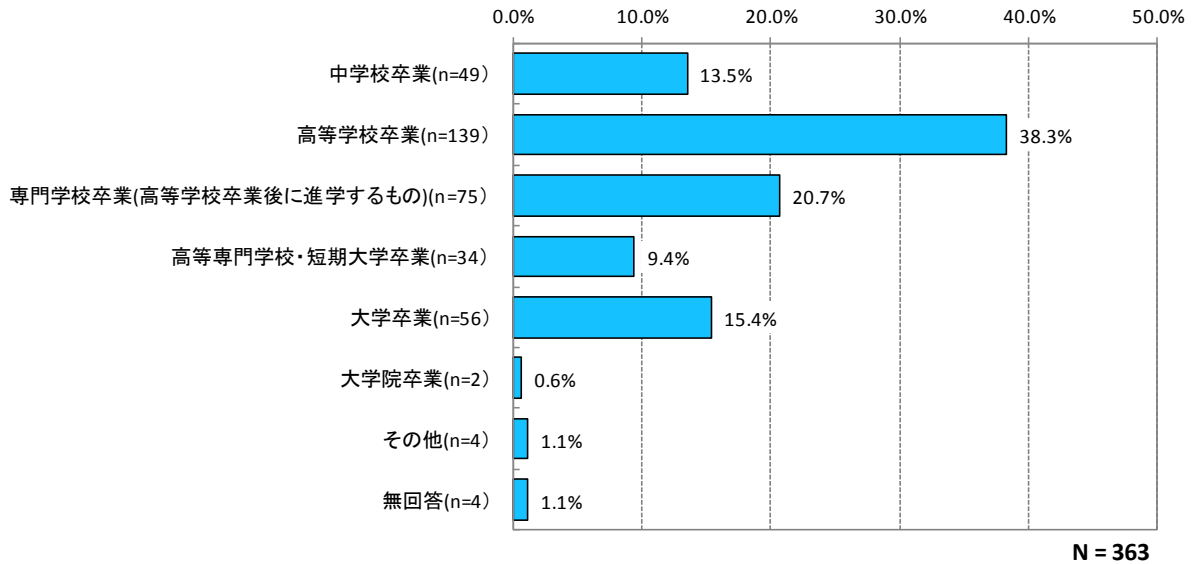


N=363

### (3) 最終学歴 (問2)

回答者の最終学歴は、「高等学校卒業」が38.3%で最も多く、「専門学校卒業」が20.7%、「大学卒業」が15.4%で続いている。

図表3 回答者の最終学歴

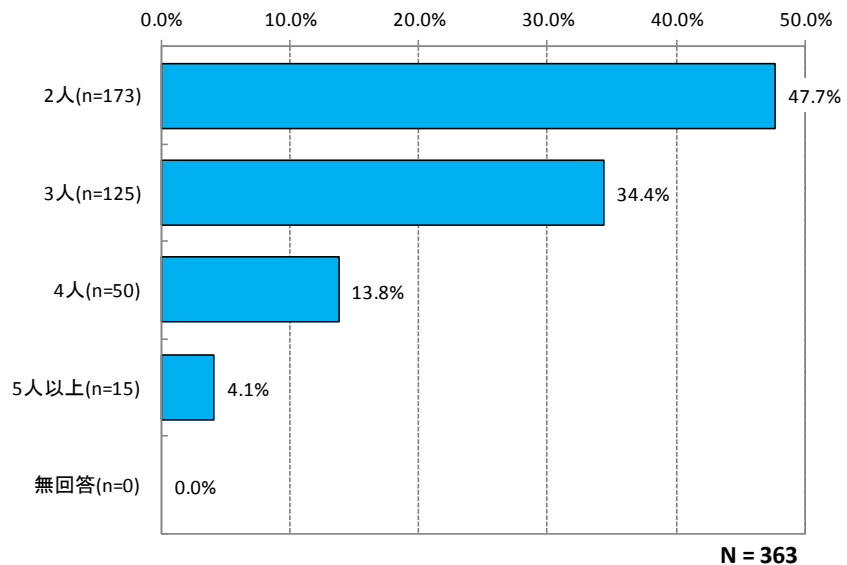


### (4) 世帯構成

#### ① 世帯人数 (問3-1)

回答者の世帯人数は、「2人」が47.7%とおよそ半数を占め、「3人」が34.4%、「4人」が13.8%と続き、「5人以上」の世帯が4.1%となっている。

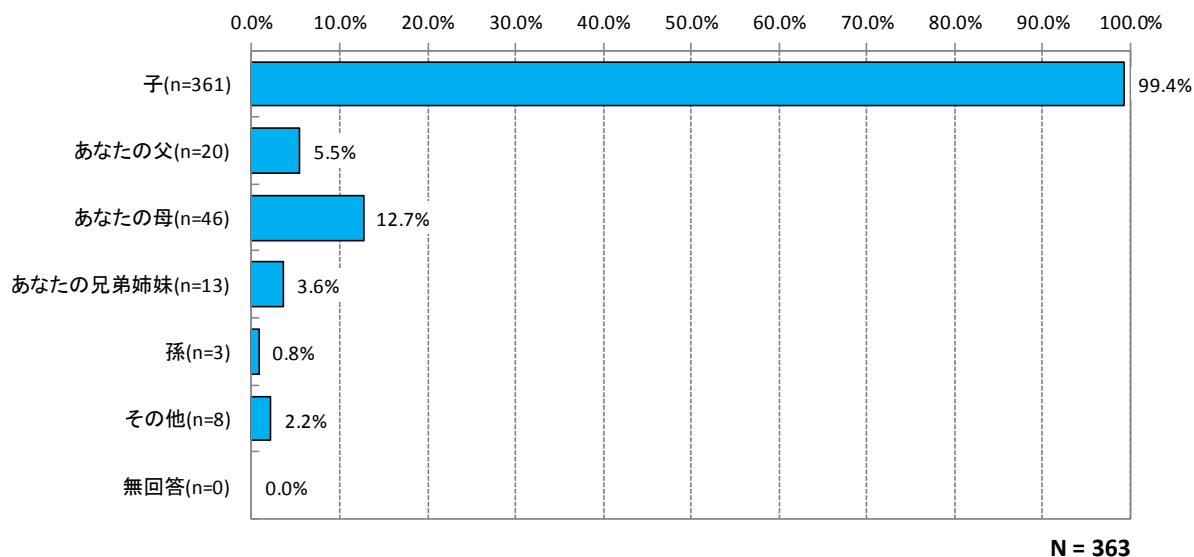
図表4 回答者の世帯人数



## ② 同居者（問 3-2）

回答者の同居者は、「子」が 99.4%、「回答者の母」が 12.7%、「回答者の父」が 5.5%などとなっている。その他として「友人」が記載されている。

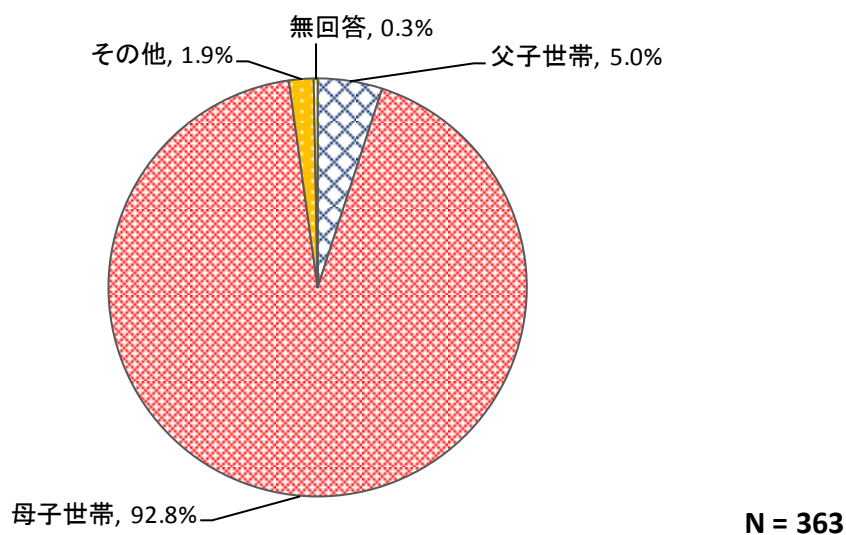
図表 5 回答者の同居者



## ③ 世帯の種類（問 3-3）

回答者の世帯の種類は、「母子世帯」が 92.8%で圧倒的割合を占め、「父子世帯」は 5.0%となっている。

図表 6 世帯の種類

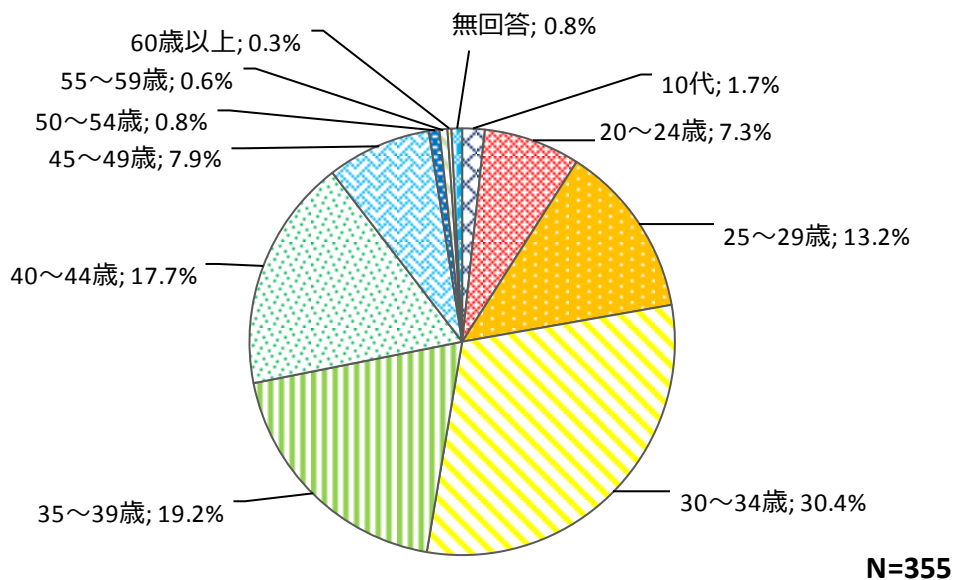


## 1-2. ひとり親としての属性

### (1) ひとり親になったときの年齢 (問 4)

ひとり親になった年齢は、「30～34歳」が30.4%で最も多く、「35～39歳」が19.2%、「40～44歳」が17.7%、「25～29歳」が13.2%が続いている。

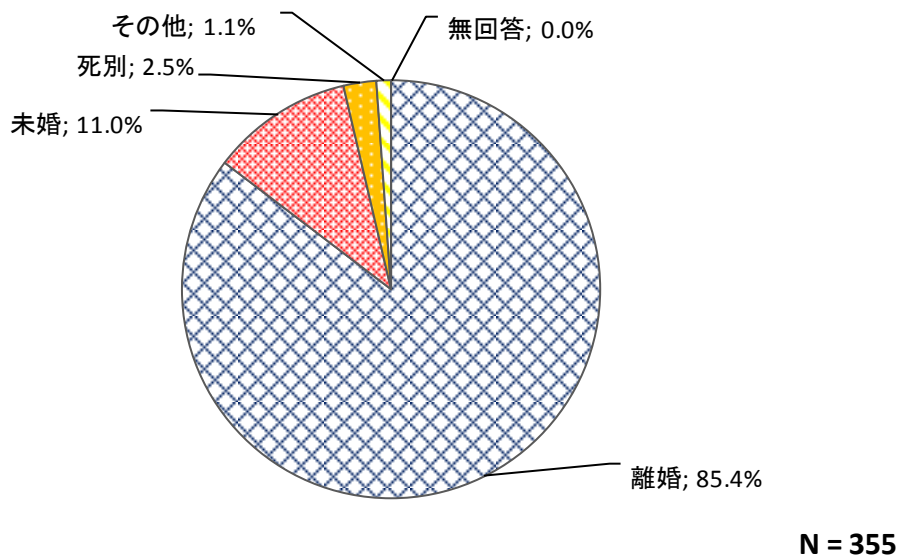
図表7 ひとり親になったときの年齢



### (2) ひとり親家庭になった理由 (問 5)

ひとり親家庭になった理由は、「離婚」が85.4%と大きな割合を占め、「未婚」が11.0%、「死別」が2.5%となっている。「その他」として、家庭内暴力、病気、障がいなどが記載されている。

図表8 ひとり親家庭になった理由

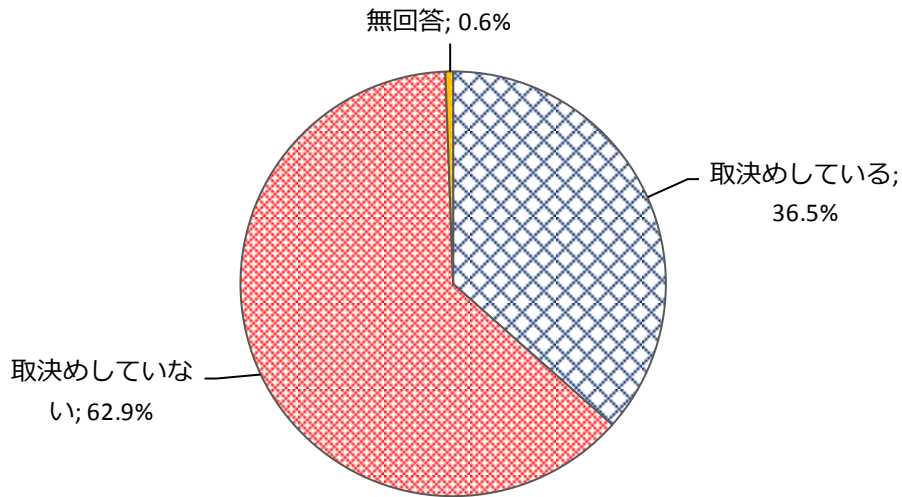


(3) 養育費の取決め及び受給状況

① 養育費取決めの有無 (問 6-1)

養育費については、「取決めしている」は 36.5%にとどまり、「取決めしていない」が 62.9%とおよそ 3分の2を占めている。

図表 9 養育費取決めの有無

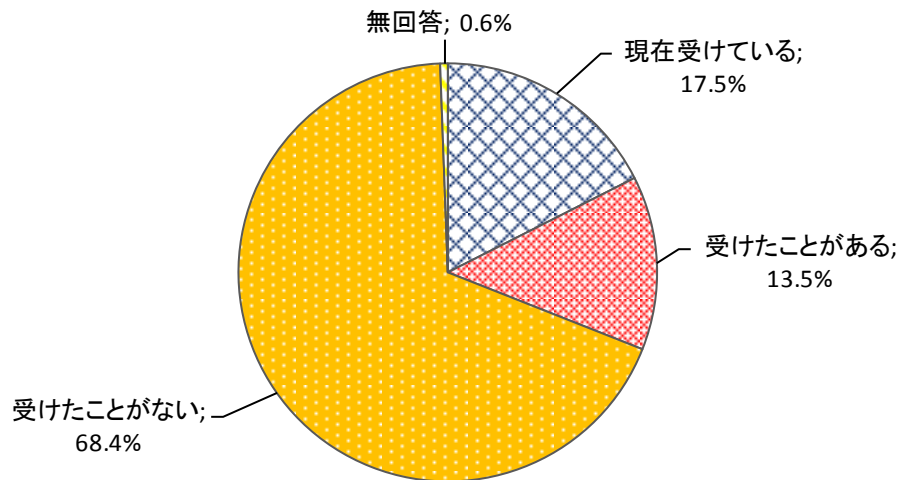


N = 342

② 養育費の受給状況 (問 6-2)

養育費の受給状況は、「受けたことがない」が 68.4%を占め、「現在受けている」は 17.5%、「受けたことがある」が 13.5%となっている。

図表 10 養育費の受給状況

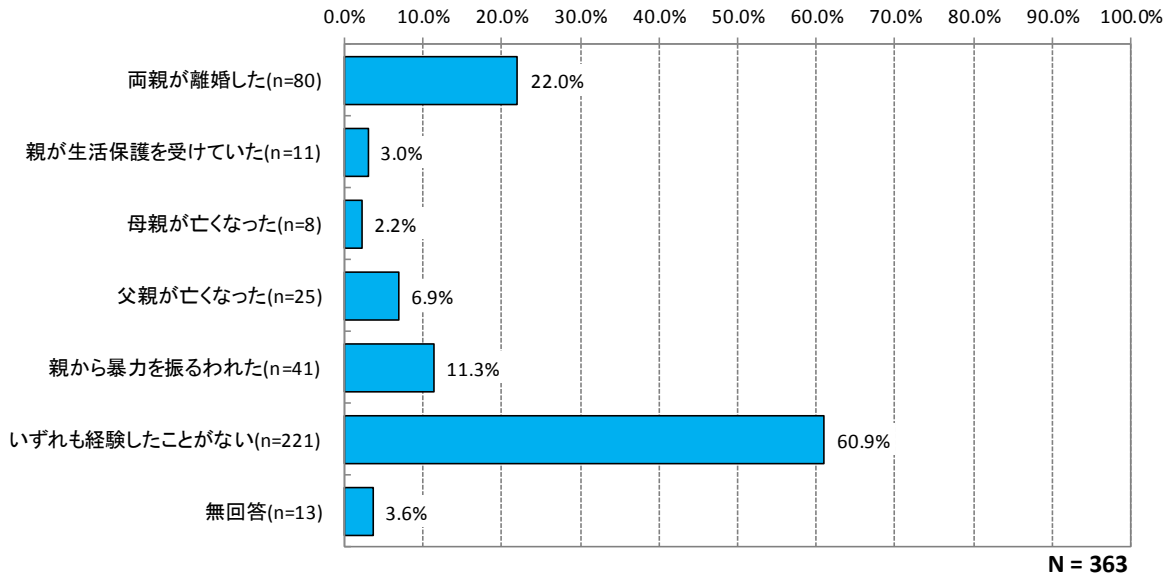


N = 342

(4) 成人前の経験 (問7)

自分が成人する前に、「両親が離婚した」人は22.0%で、「親が生活保護を受けていた」人は3.0%、「母親が亡くなった」人は2.2%、「父親が亡くなった」人は6.9%、「親から暴力を振るわれた」人は11.3%となっており、「いずれも経験したことがない」人が60.9%を占めている。

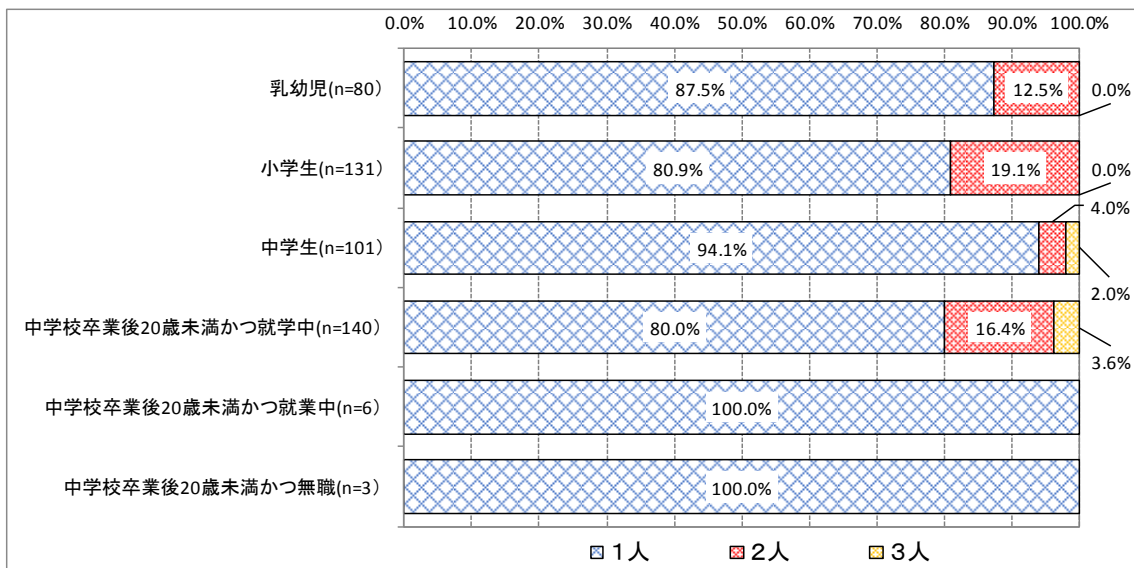
図表 11 成人前の経験



(5) 同居している子ども (20歳未満) の状況 (問8-1,2,3,4,5,6)

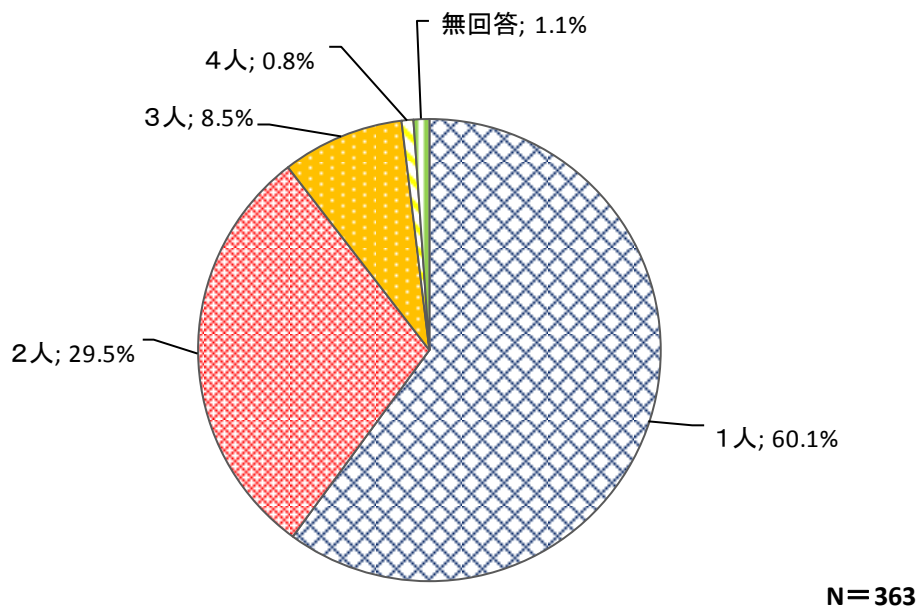
同居している子ども (20歳未満) の人数を尋ねた。「小学校入学前の乳幼児」がいる世帯のうち乳幼児が「1人」の世帯が87.5%、「2人」が12.5%、「3人」以上はない。「小学生」がいる世帯のうち、小学生が「1人」の世帯が80.9%、「2人」が19.1%、「中学生」がいる世帯のうち、中学生が「1人」の世帯が94.1%、「2人」は4.0%、「3人」は2.0%、「中学校卒業後20歳未満かつ就学中」の子どもがいる世帯のうち、就学者が「1人」の世帯が80.0%、「2人」16.4%、「3人」が3.6%などとなっている。

図表 12 同居している子ども (20歳未満) の状況



世帯ごとの同居している子どもの人数を加算し、1世帯当たりの子どもの人数の分布をみると、「子ども1人」は60.1%、「子ども2人」が29.5%となっている。「子ども3人」と「子ども4人」の世帯は、それぞれ8.5%、0.8%と少ない。

図表 13 世帯あたりの同居している子どもの人数

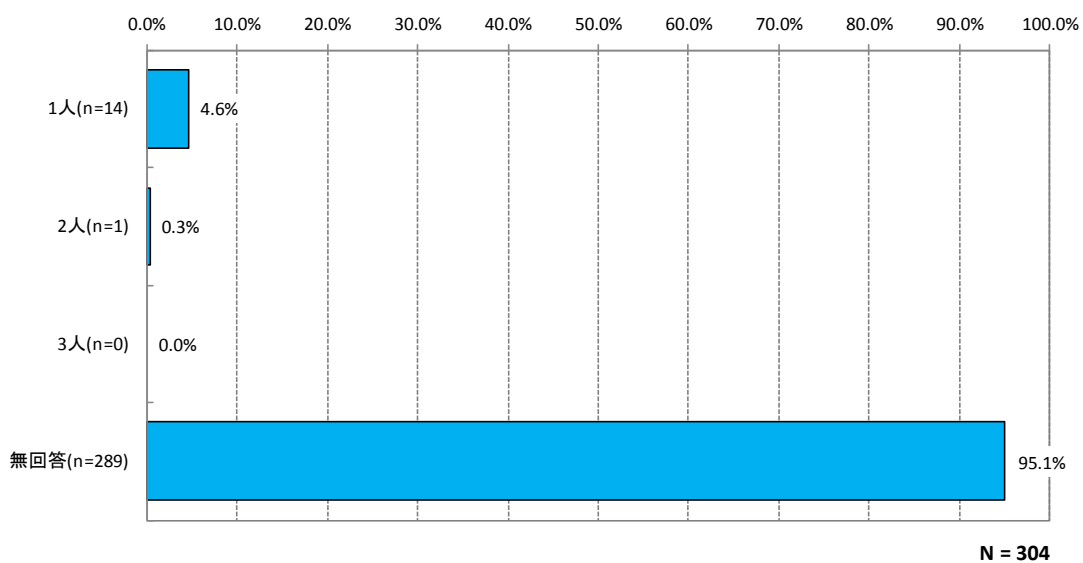


(6) 不登校経験者及び高校未卒業者

① 小学生以上の子どものいる世帯の不登校経験者数 (問 8-7)

小学生以上の子どものうち、不登校経験者は、「1人」が14件、「2人」が1件となっている。

図表 14 小学生以上の子どものうち、不登校経験者

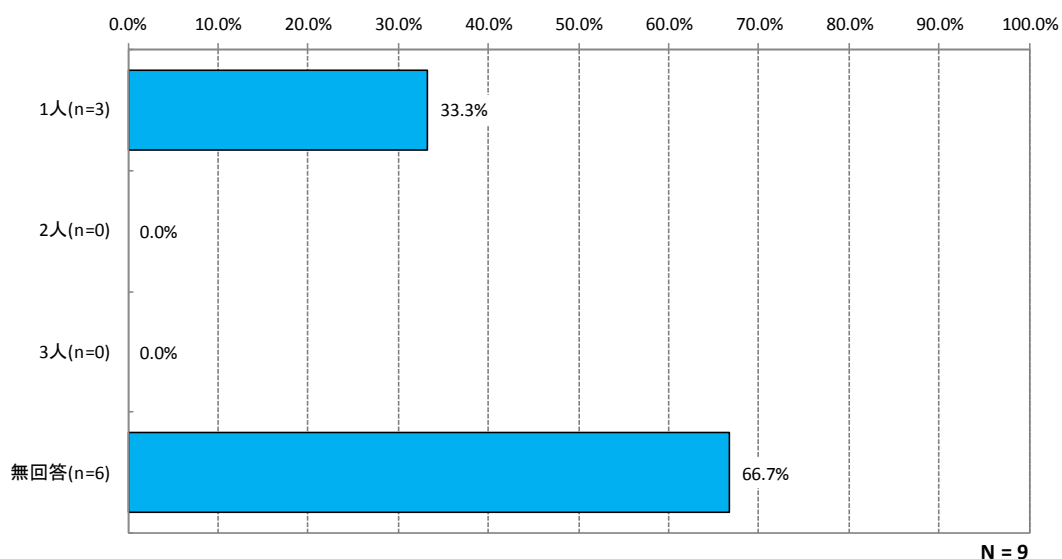




② 就業者又は無職者のうち、高校未卒業者の人数（問 8-8）

中学校卒業後に就業し、又は無職であった9件のうち、高校未卒業者は、3件あった。

図表 15 中学校卒業後就業又は無職のうち、高校未卒業者

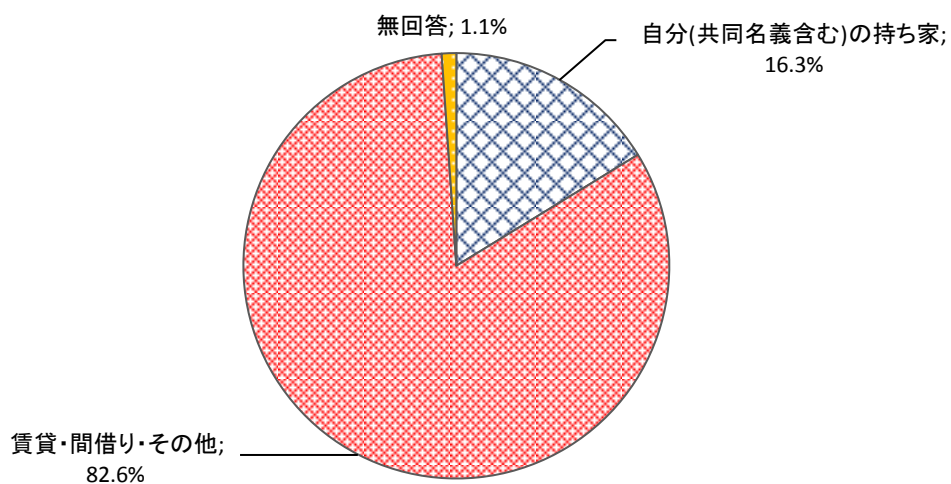


(7) 住まいの状況

① 住まいの種類（問 9-1）

住まいの種類は、「賃貸・間借り・その他」が 82.6%を占め、「自分（共同名義を含む）の持ち家」は 16.3%となっている。

図表 16 住まいの種類

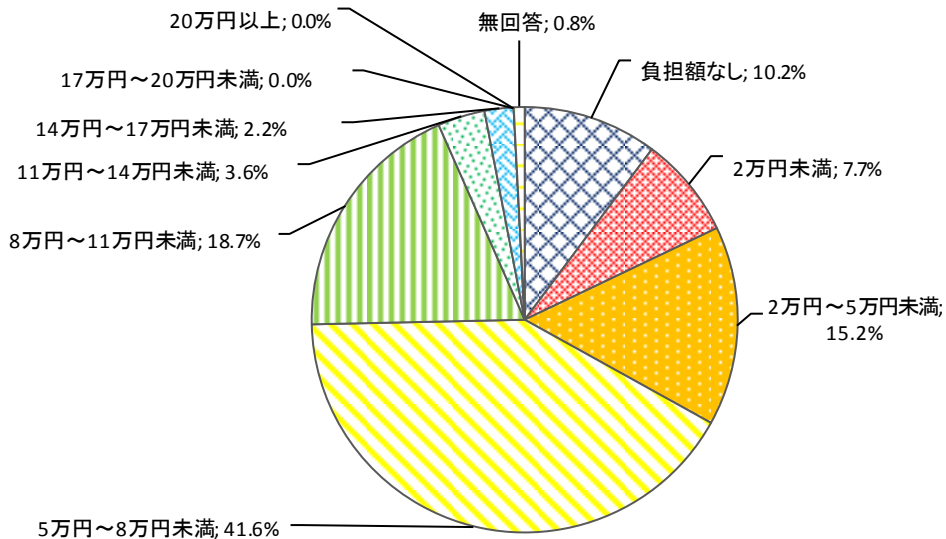


N = 363

② 1か月の住居費（問9-2）

1か月の住居費は、「5万円～8万円未満」が41.6%で最も多く、「8万円～11万円未満」が18.7%、「2万円～5万円未満」が15.2%などとなっている。

図表 17 1か月の住居費



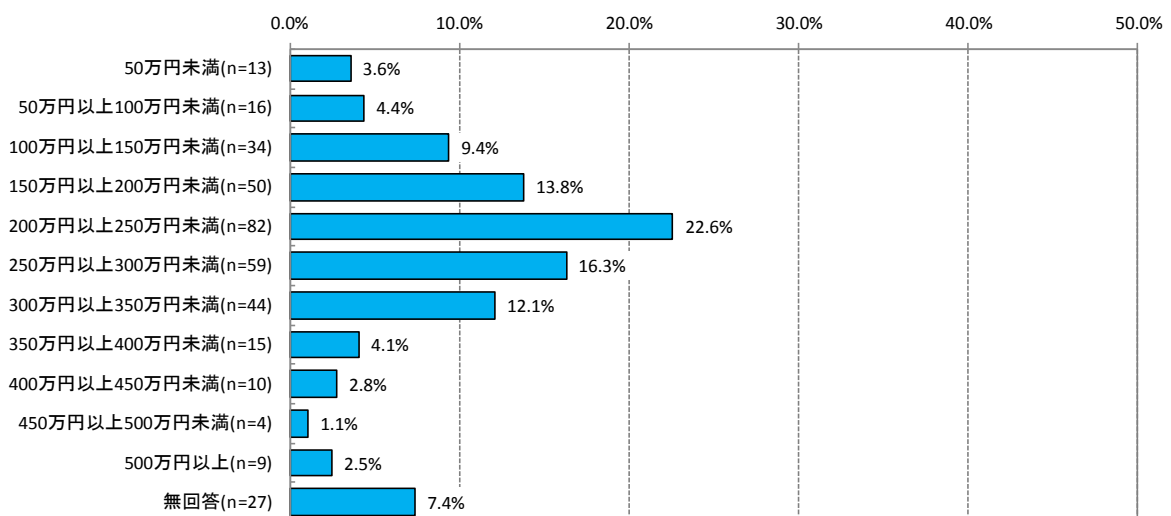
N = 363

2. 経済・就業状況

(1) 昨年1年間の世帯のおおよその手取りの総収入(養育費や手当等を含む総収入)(問10)

昨年1年間の、世帯のおおよその手取りの総収入は、平均額で230万円となっている。収入の分布をみると、「200万円～250万円」が22.6%で最も多く、「250万円～300万円」が16.3%、「150万円～200万円」が13.8%となっており、「300万円未満」の世帯が過半数を占めている。

図表 18 昨年1年間の、世帯のおおよその手取りの年収

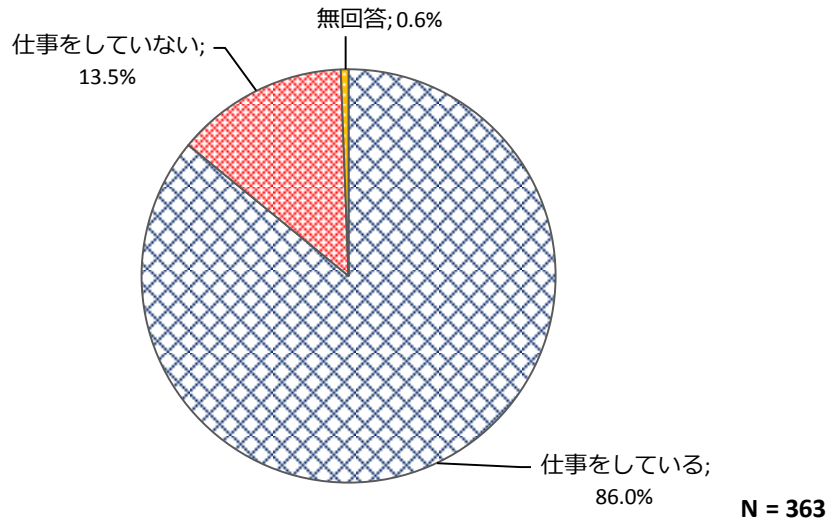


N = 363

### (2) 現在の就業状況 (問 11)

現在の就業状況は、「仕事をしている」人が 86.0%を占め、「仕事をしていない」人は 13.5%となっている。

図表 19 現在仕事をしているか

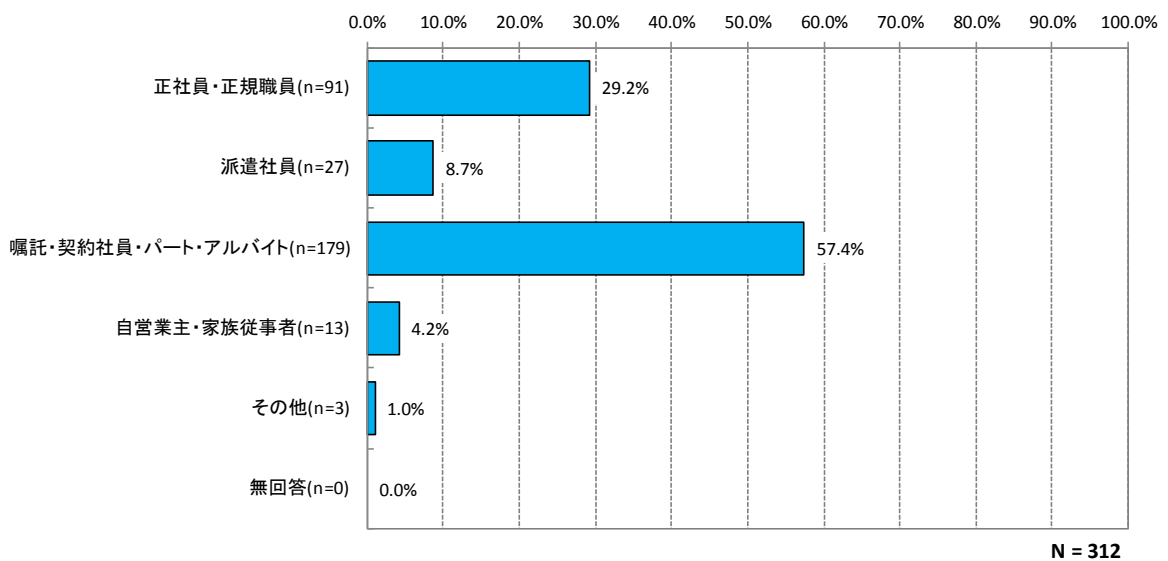


### (3) 主な仕事の雇用形態 (問 12)

現在の仕事の形態は、「嘱託・契約社員・パート・アルバイト」が 57.4%と過半数を占め、「正社員・正規職員」は 29.2%、「派遣社員」が 8.7%、「自営業主・家族従事者」が 4.2%となっている。

なお、昨年 1 年間の世帯のおおよその手取りの総収入を回答者の雇用形態別に集計すると、総収入が 250 万円以上の割合は、雇用形態が「正社員・正規職員」の場合は 62.7%、「嘱託・契約社員・パート・アルバイト」の場合は 27.9%であり、「正社員・正規職員」の方が総収入は多くなっている (問 10×問 12。巻末資料図表 90)。

図表 20 主な仕事の雇用形態

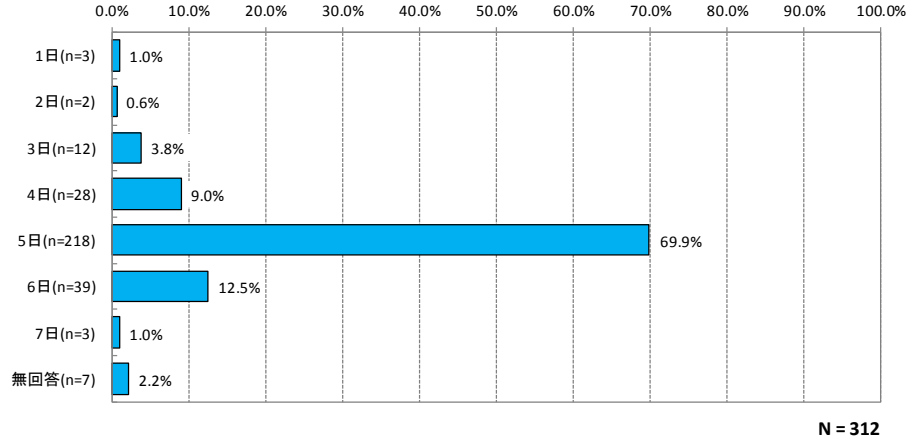


(4) 勤務時間など

① 就労日数 (問 13-1)

就労している人に、1週間の就労日数を尋ねたところ、「5日」が69.9%を占め、「6日」が12.5%、「4日」が9.0%などとなっている。

図表 21 就労日数



② 出勤時刻と帰宅時刻 (問 13-2)

出勤時刻と帰宅時刻は、「午前8時～午後6時」が31人で最も多く、「午前9時～午後5時」が29人、「午前9時～午後6時」が26人で続いている。

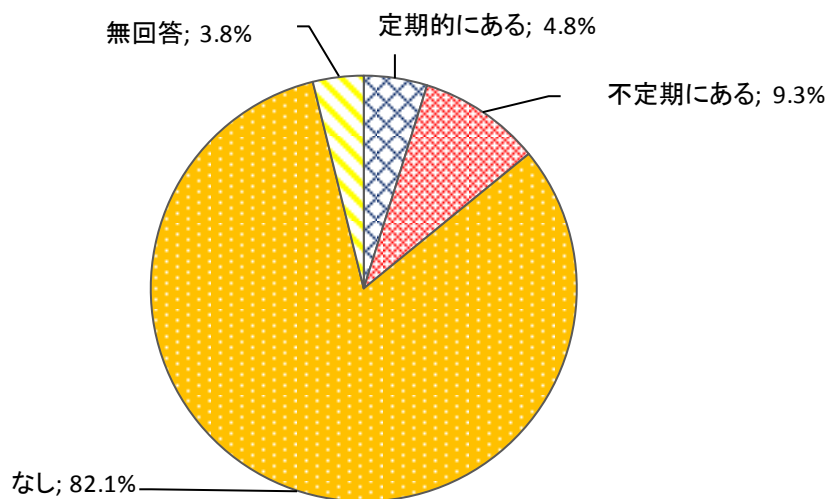
図表 22 出勤時刻と帰宅時刻

度数		帰宅時刻											
		合計	午後1時	午後2時	午後3時	午後4時	午後5時	午後6時	午後7時	午後8時	午後9時	午後10時以降	無回答
出勤時刻	全体	312	3	3	12	33	61	88	55	24	6	16	11
	午前5時	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-
	午前6時	8	-	-	-	2	2	-	2	1	-	-	1
	午前7時	46	-	-	-	1	2	22	13	7	-	1	-
	午前8時	101	1	1	1	13	19	31	22	9	3	1	-
	午前9時	97	2	-	5	12	29	26	15	3	2	3	-
	午前10時	28	-	2	5	4	7	7	1	1	-	1	-
	午前11時	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
	午後0時以降	17	-	-	-	-	2	1	2	1	1	9	1
	無回答	10	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	9

③ 22時以降の深夜勤務の有無（問13-3）

22時以降の深夜勤務は、「なし」が82.1%と大半を占めるものの、「不定期にある」が9.3%、「定期的にある」が4.8%あった。

図表 23 22時以降の深夜勤務

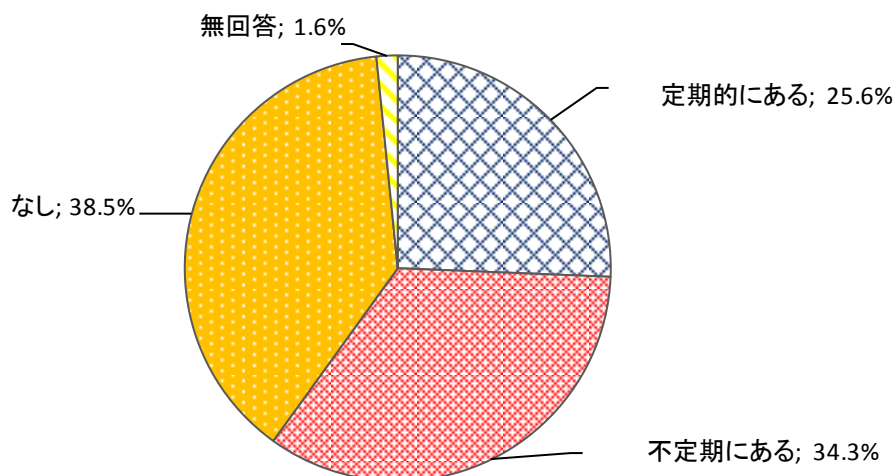


N = 312

④ 土曜日勤務の有無（問13-4）

土曜日勤務は、「なし」が38.5%と最も多いが、「不定期にある」が34.3%あり、「定期的にある」も25.6%となっており、半数以上が何らかの形で土曜日勤務があるとしている。

図表 24 土曜日勤務

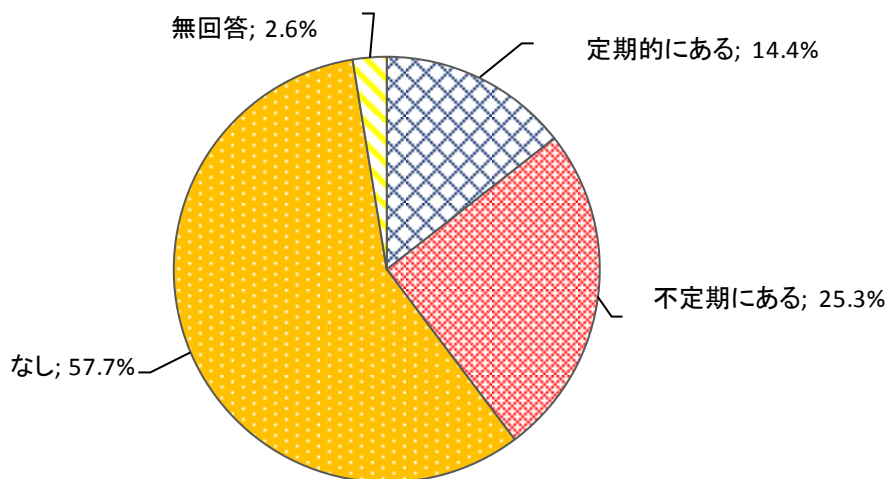


N = 312

⑤ 日曜・祝日勤務の有無（問 13-5）

日曜・祝日勤務は、「なし」が 57.7%と過半数を占め、「定期的にある」が 14.4%あり、「不定期にある」が 25.3%となっている。

図表 25 日曜・祝日勤務

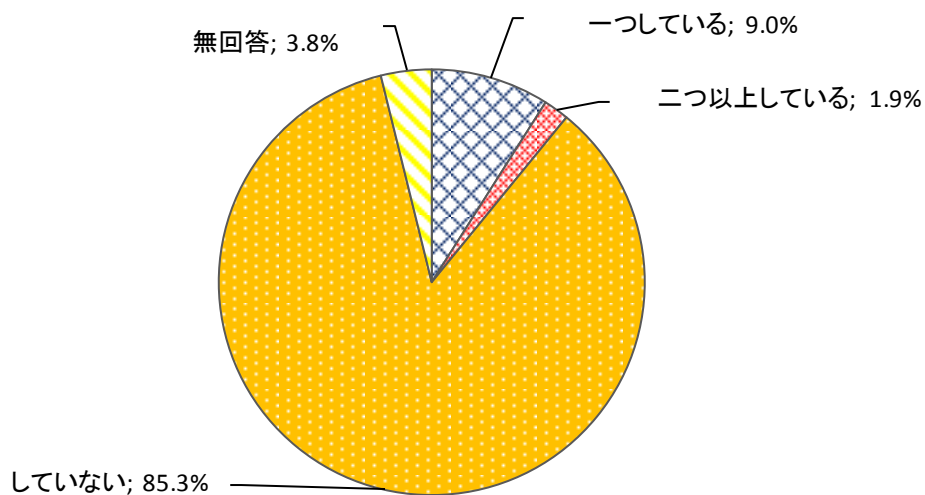


N = 312

⑥ 副業の有無（問 13-6）

副業は、「していない」が 85.3%と大多数を占め、「一つしている」が 9.0%で、「二つ以上している」は 1.9%となっている。

図表 26 副業

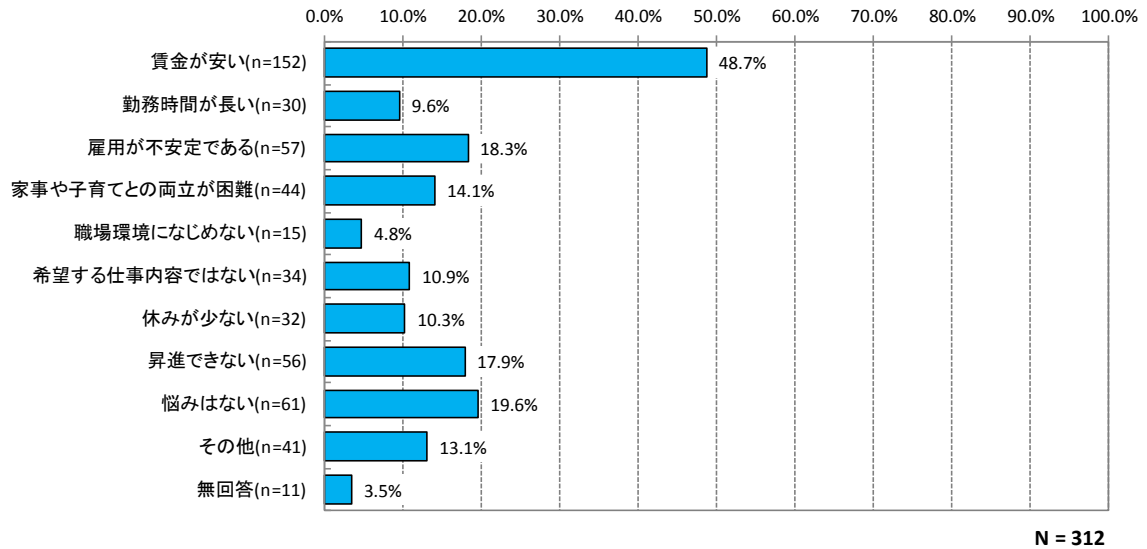


N = 312

(5) 仕事に関する悩み (問 14)

仕事に関する悩みは、「賃金が安い」が 48.7%と半数近く、「雇用が不安定である」が 18.3%、「昇進できない」が 17.9%などと続き、一方、「悩みはない」が 19.6%となっている。「その他」が 13.1%となっており、「交通費や賞与が支給されない」、「有休がない」などとなっている。

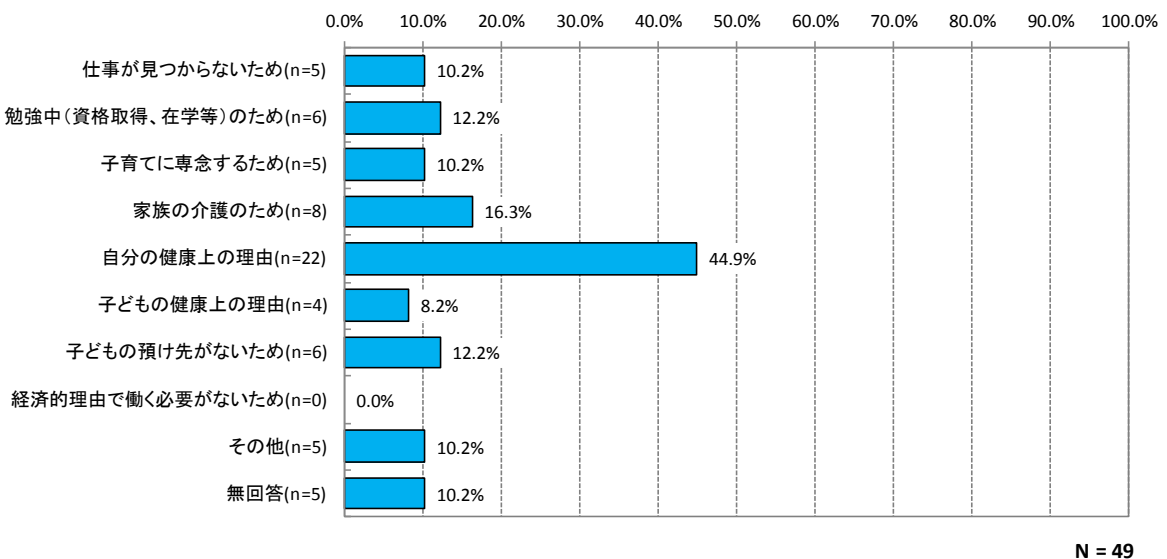
図表 27 仕事に関する悩み



(6) 現在、仕事をしていない理由 (問 15)

現在、仕事をしていない理由は、「自分の健康上の理由」が 44.9%と最も多く、「家族の介護のため」が 16.3%、「勉強中(資格取得、在学等)のため」と「子どもの預け先がないため」が 12.2%で続いている。「その他」には年齢(高齢であること)を理由に仕事をしていない旨が記載されている。

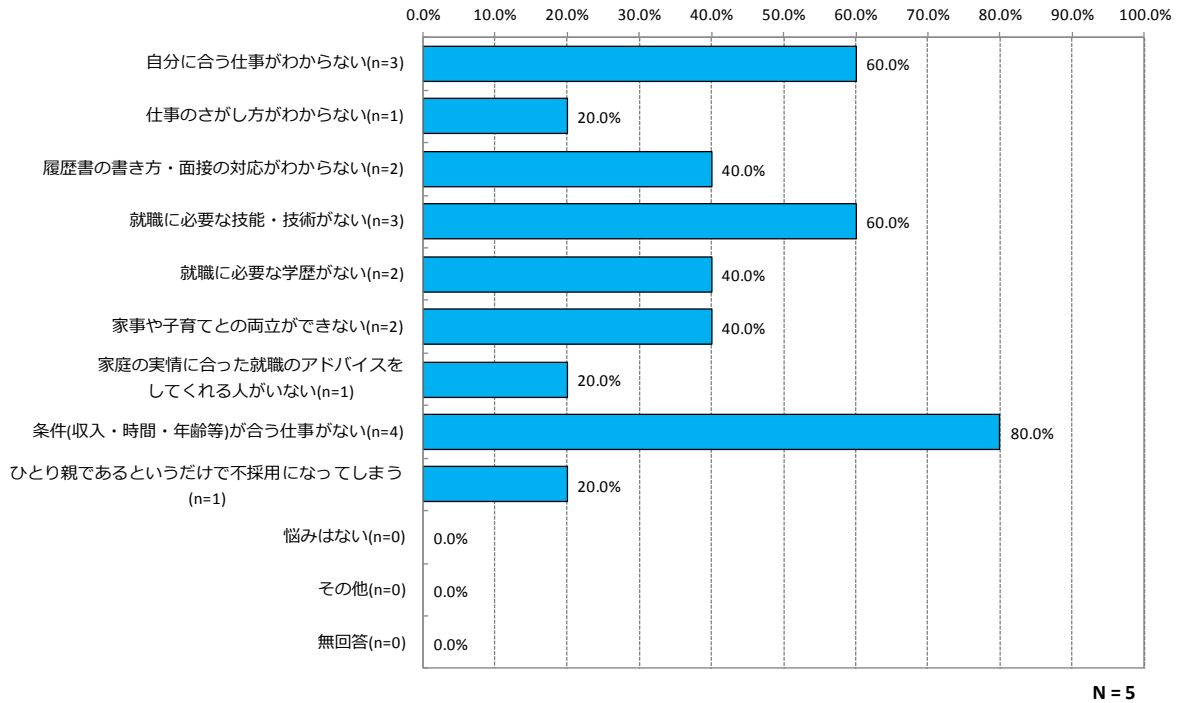
図表 28 現在仕事をしていない理由



(7) 仕事探しに関する悩み (問 16)

仕事探しに関する悩みは、回答数は少ないが、「条件(収入・時間・年齢等)が合う仕事がない」が80.0%で最も多く、「自分に合う仕事が見つからない」と「就職に必要な技能・技術がない」が60.0%となっている。

図表 29 仕事探しについての悩み

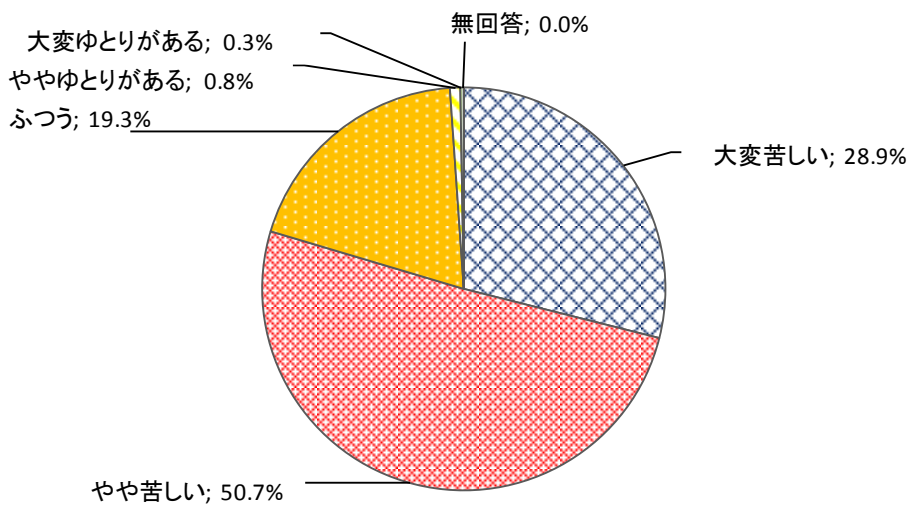


(8) 現在の暮らし向き (問 17-1)

現在の暮らし向きは、「やや苦しい」が50.7%と半数を占め、「大変苦しい」が28.9%あり、合わせて8割近くの家庭が苦しいとしている。

なお、現在の暮らし向きを養育費の受給経験の有無別に集計すると、養育費を「受けたことがない」回答者(82.9%)は、養育費を「現在受けている」又は「受けたことがある」回答者(74.5%)に比べて、現在の暮らし向きを「大変苦しい」又は「やや苦しい」と評価する割合が高い(問 6-2×問 17-1。巻末資料図表 91)。

図表 30 現在の暮らし向き



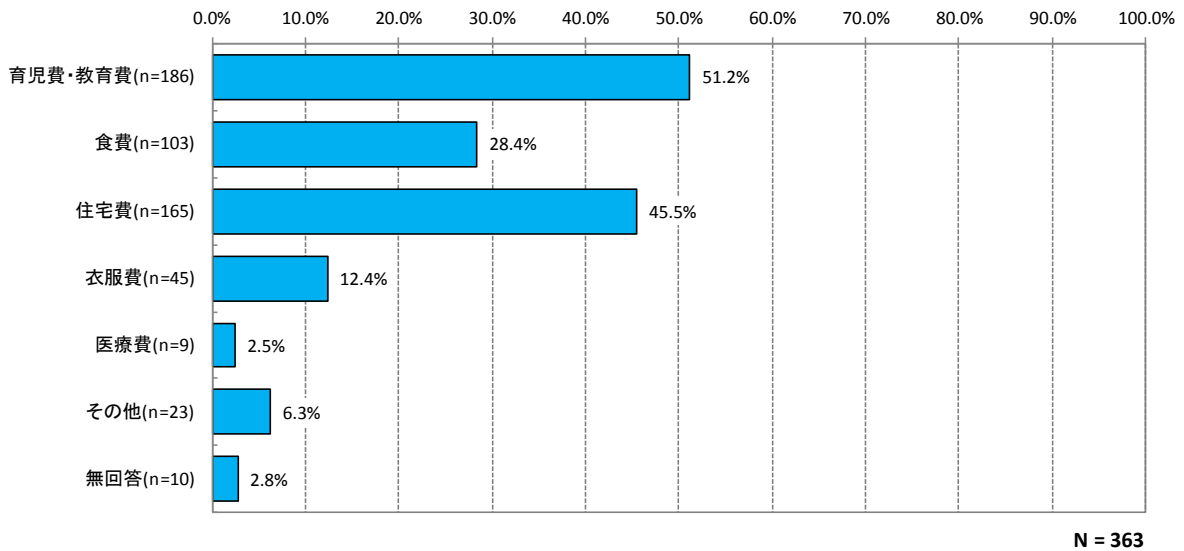
N = 363



### (9) 負担に感じる費用 (問 17-2)

生活する上で、負担に感じる費用は、「育児費・教育費」が 51.2%で最も多く、「住宅費」が 45.5%で続き、「食費」が 28.4%となっている。

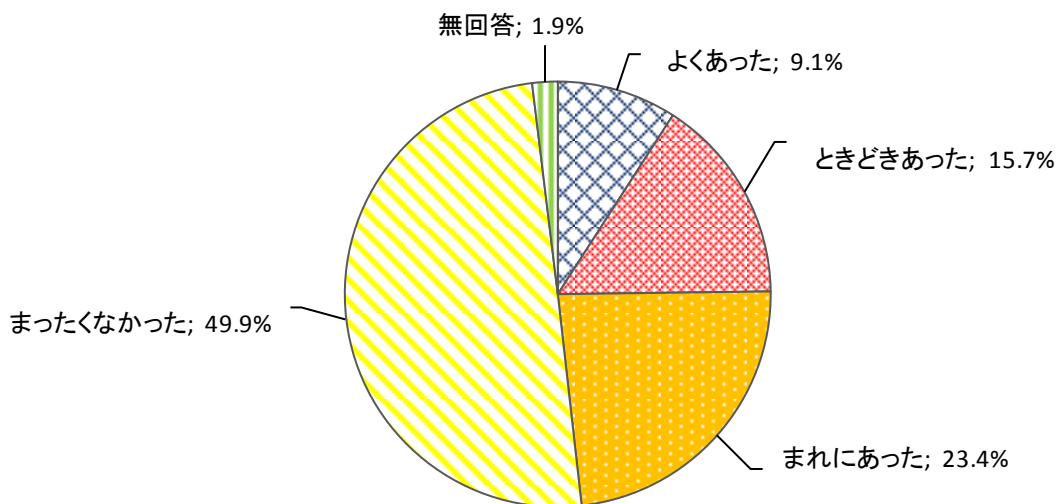
図表 31 負担に感じる費用



### (10) 過去1年間にお金が足りず食料が買えなかった経験の有無 (問 18-1)

過去1年間にお金が足りず食料が買えなかった経験は、「まったくなかった」が 49.9%とほぼ半数を占めるが、「まれにあった」が 23.4%、「ときどきあった」が 15.7%あり、「よくあった」も 9.1%あった。半数近くが「食料が買えないことがある」としている。

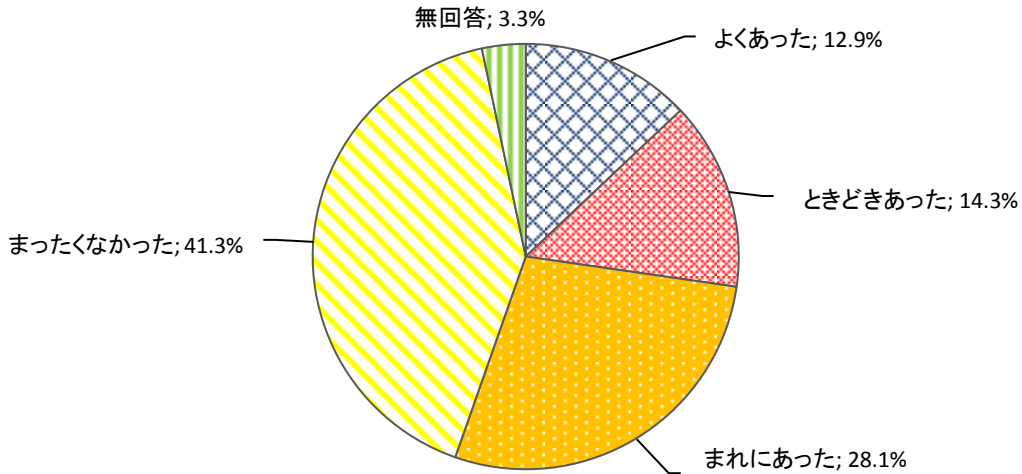
図表 32 過去1年間にお金が足りず食料が買えないことがあったか



(11) 過去1年間にお金が足りず衣類が買えなかった経験の有無 (問 18-2)

過去1年間にお金が足りず衣類が買えなかった経験は、「まったくなかった」が41.3%で最も多いが、「まれにあった」が28.1%、「ときどきあった」が14.3%、「よくあった」も12.9%あった。半数以上が「衣類が買えないことがある」としている。

図表 33 過去1年間にお金が足りず衣類が買えないことがあったか



N = 363

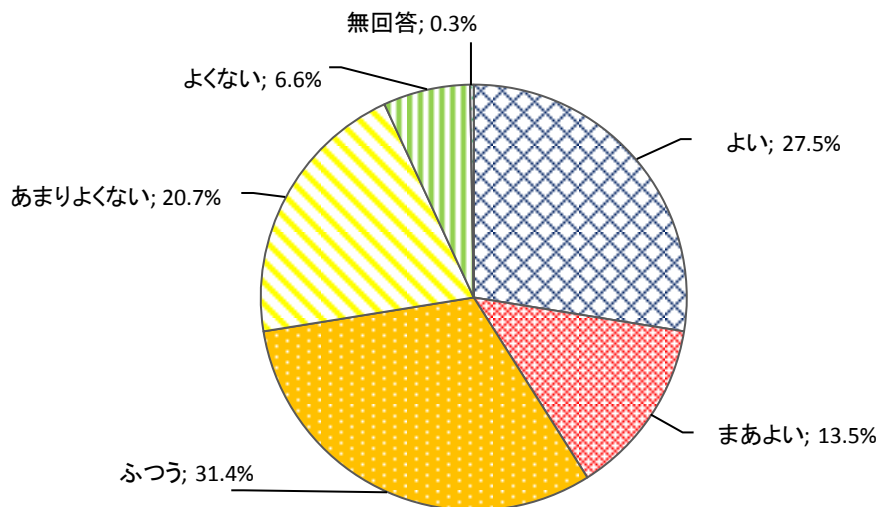
3. 親の生活状況等

(1) 回答者と子どもの健康状態 (問 19)

① 回答者の健康状態 (問 19-1)

回答者の健康状態は、「ふつう」が31.4%で最も多く、「よい」が27.5%で続いているが、「あまりよくない」が20.7%、「よくない」が6.6%あり、「あまりよくない」又は「よくない」の割合が4分の1を超えている。

図表 34 回答者の健康状態

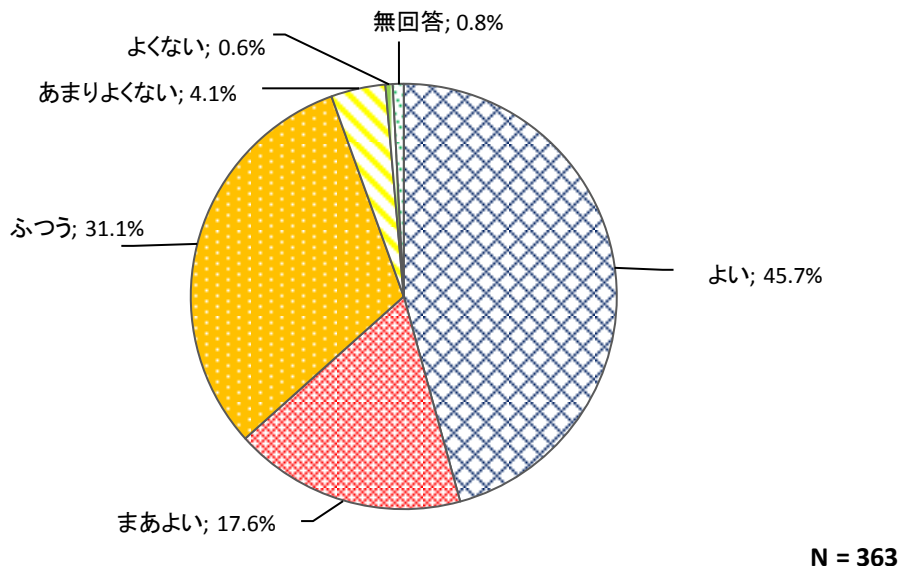


N = 363

## ② 子どもの健康状態(問 19-2)

子どもの健康状態は、「よい」が 45.7%で最も多く、次いで「ふつう」が 31.1%、「まあよい」が 17.6%となっており、おおむね良好な子どもが多い。

図表 35 子どもの健康状態

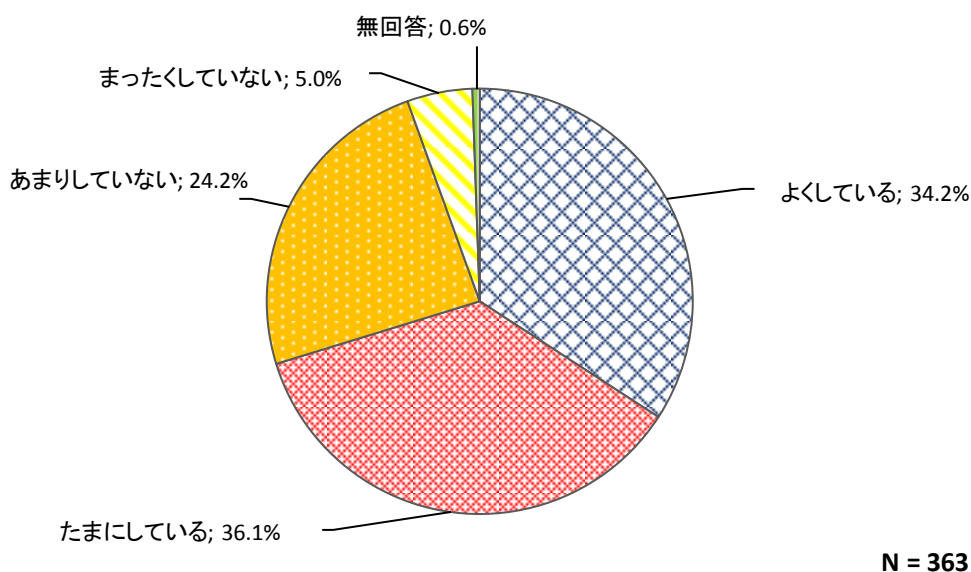


## (2) 社会とのかかわりの状況

### ① 親戚・親族との付き合い(問 20-1)

親戚・親族との付き合いは、「たまにしている」が 36.1%で最も多く、「よくしている」が 34.2%で続いているが、「あまりしていない」が 24.2%あり、「まったくしていない」が 5.0%あった。

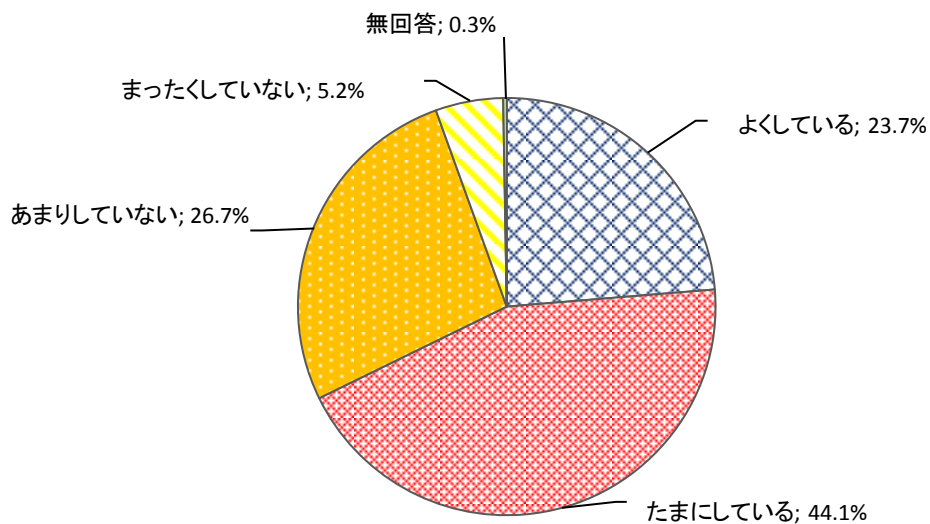
図表 36 親戚・親族との付き合い



② 友人・知人、職場の同僚との付き合い（問 20-2）

友人・知人、職場の同僚との付き合いは、「たまにしている」が44.1%で最も多く、「よくしている」の23.7%と合わせると7割近くが「付き合いがある」としている。「あまりしていない」が26.7%、「まったくしていない」が5.2%となっている。

図表 37 友人・知人、職場の同僚との付き合い

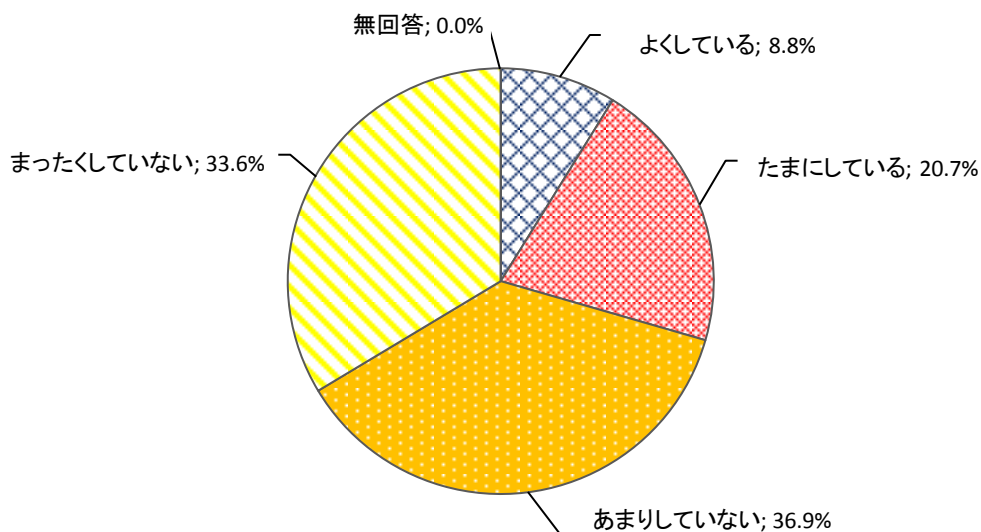


N = 363

③ 近所の人との付き合い（問 20-3）

近所との付き合いは、「あまりしていない」が36.9%で最も多く、「まったくしていない」が33.6%となっており、両回答の割合の合計が7割を超えている。

図表 38 近所の人との付き合い

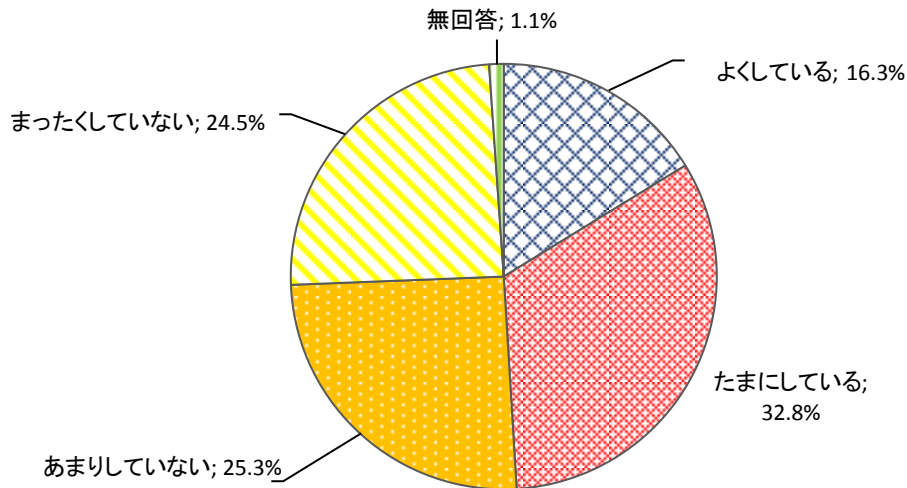


N = 363

④ 幼稚園、保育園、学校等の行事への参加（平日）（問 20-4）

幼稚園、保育園、学校等の行事への参加について、平日では「たまにしている」が32.8%で最も多く、「よくしている」が16.3%であるが、「あまりしていない」が25.3%、「まったくしていない」が24.5%となっており、参加している人と参加していない人が半々となっている。

図表 39 幼稚園、保育園、学校等の行事への参加（平日）

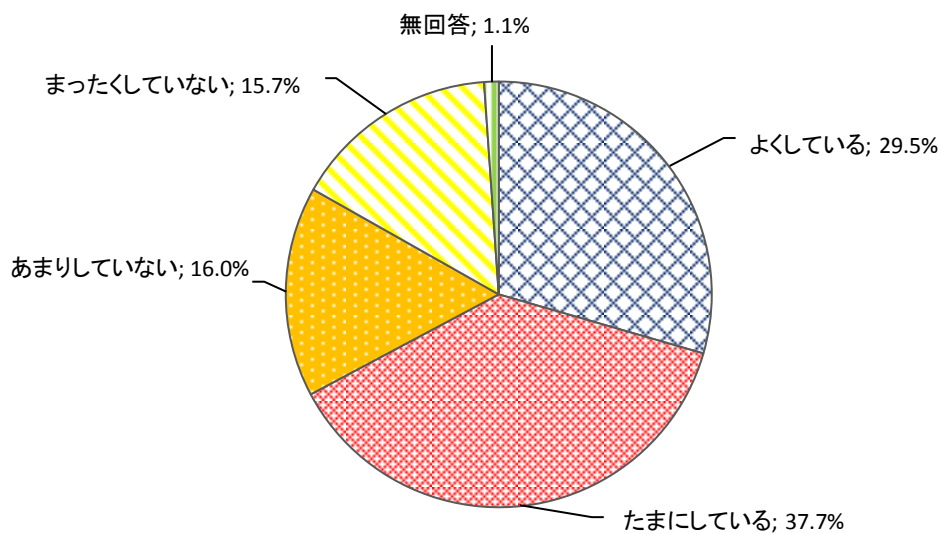


N = 363

⑤ 幼稚園、保育園、学校等の行事への参加（休日）（問 20-5）

幼稚園、保育園、学校等の行事への参加について、休日では「たまにしている」が37.7%で最も多く、「よくしている」が29.5%となっており、平日と比べて休日は参加している人の割合が多くなっている。

図表 40 幼稚園、保育園、学校等の行事への参加（休日）

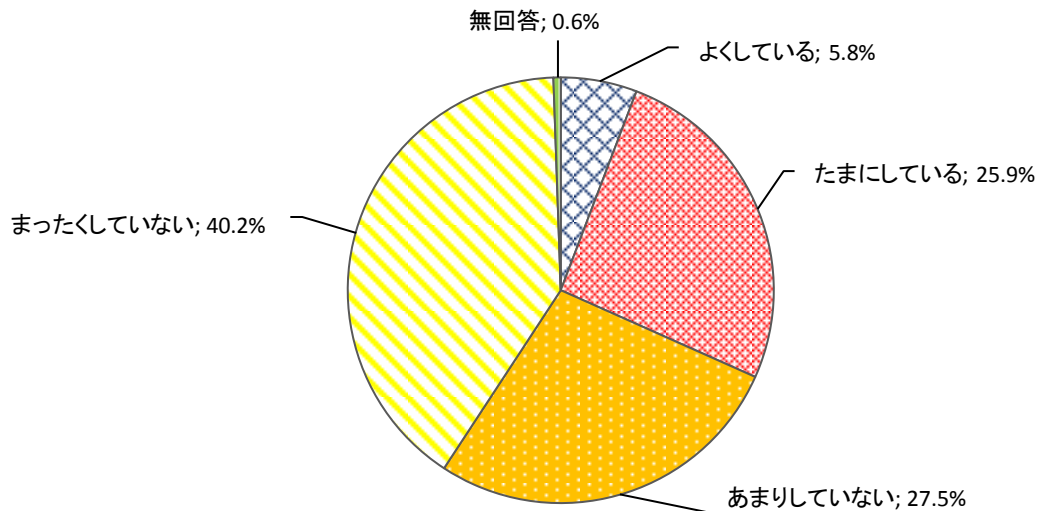


N = 363

⑥ 地域の行事（自治会、お祭り等）への参加（問 20-6）

地域の行事（自治会、お祭り等）への参加について、「まったくしていない」が40.2%で最も多く、次いで「あまりしていない」が27.5%である一方、「たまにしている」が25.9%、「よくしている」が5.8%で、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が7割近くになっている。

図表 41 地域の行事（自治会、お祭り等）への参加

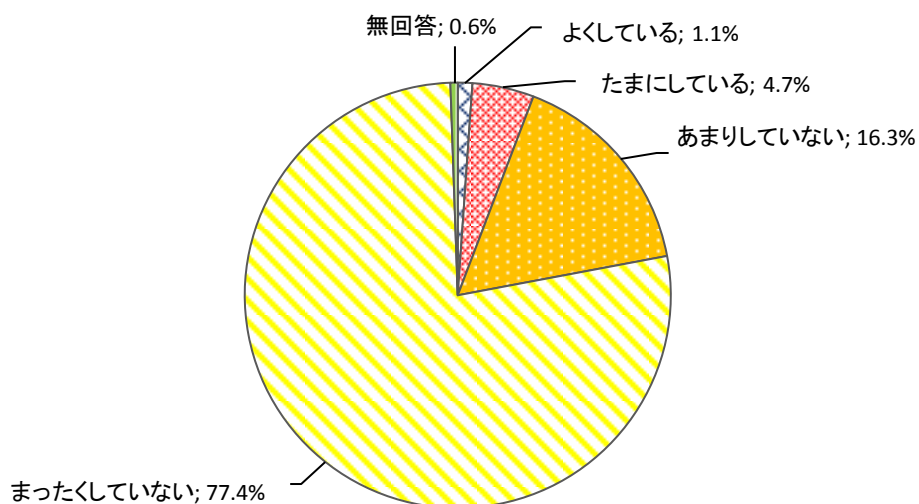


N = 363

⑦ ボランティア等の社会的活動への参加（問 20-7）

ボランティア等の社会的活動への参加について、「まったくしていない」が77.4%を占め、「あまりしていない」の16.3%と合わせると9割以上となり、「よくしている」又は「たまにしている」割合は1割に満たない。

図表 42 ボランティア等の社会的活動への参加

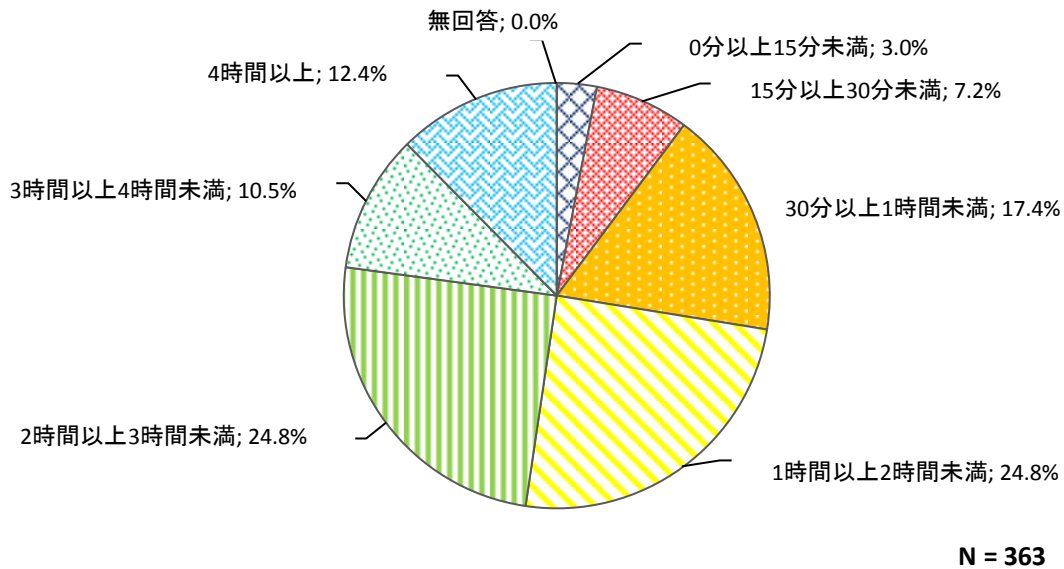


N = 363

### (3) 平日に子どもと一緒に過ごす平均時間（問 21）

平日に子どもと一緒に何かをしたり、相手をしている時間は、「1時間以上2時間未満」と「2時間以上3時間未満」が多く、それぞれ24.8%となっている。「30分以上1時間未満」が17.4%、「15分以上30分未満」の7.2%、「0分以上15分未満」の3.0%、「0分以上15分未満」の3.0%と合わせると約3割弱（27.6%）が「1時間未満」である。

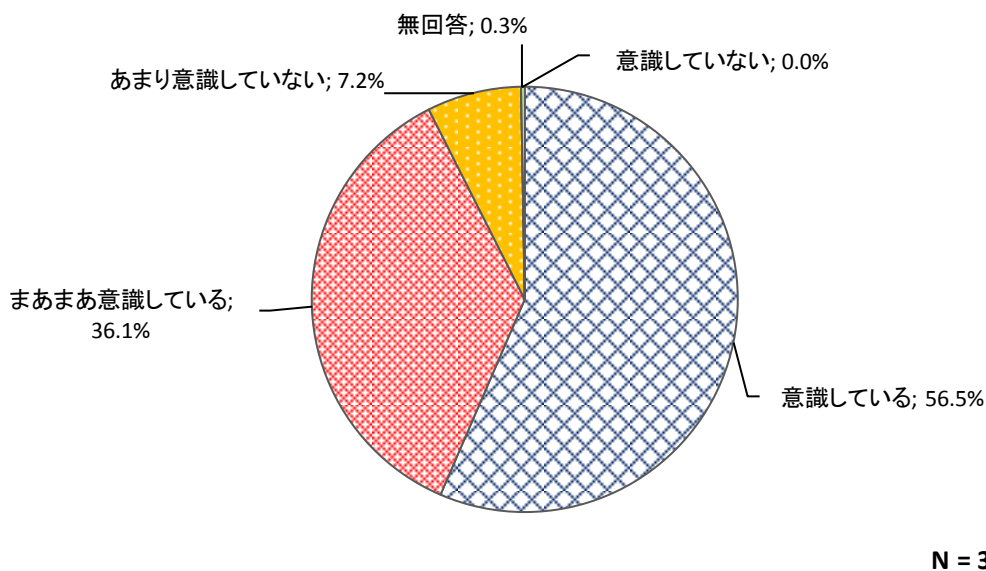
図表 43 平日に子どもと一緒に何かをしたり、相手をしている時間の平均



### (4) 子どもの生活習慣づくりの意識（問 22）

子どもに生活習慣を身に付けさせることを意識しているかどうかについては、「意識している」が56.5%、「まあまあ意識している」が36.1%と、ある程度意識している人が大きな割合を占めている。

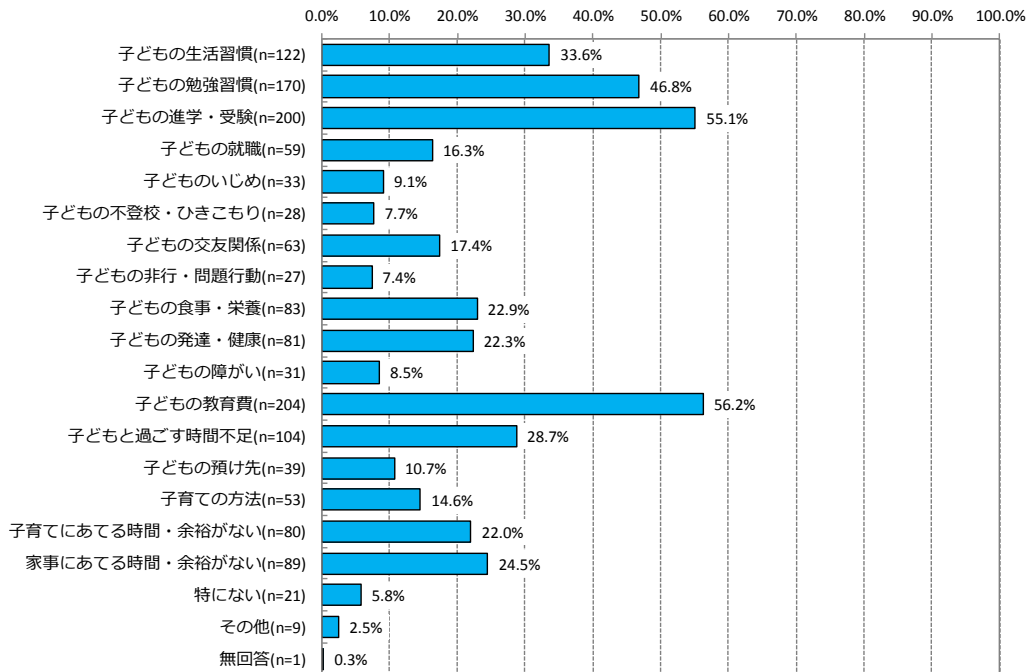
図表 44 子どもに生活習慣を身に付けさせることを意識しているか



(5) 子育てに関する悩み (問 23)

子育てに関する悩みは、「子どもの教育費」が 56.2%で最も多く、次いで「子どもの進学・受験」が 55.1%、「子どもの勉強習慣」が 46.8%で続き、教育に関する悩みを持つ人が多い。また、「子どもと過ごす時間不足」、「子育てにあてる時間・余裕がない」、「家事にあてる時間・余裕がない」の時間不足に関する回答の割合がそれぞれ 2 割を占めている。

図表 45 子育てに関しての悩み

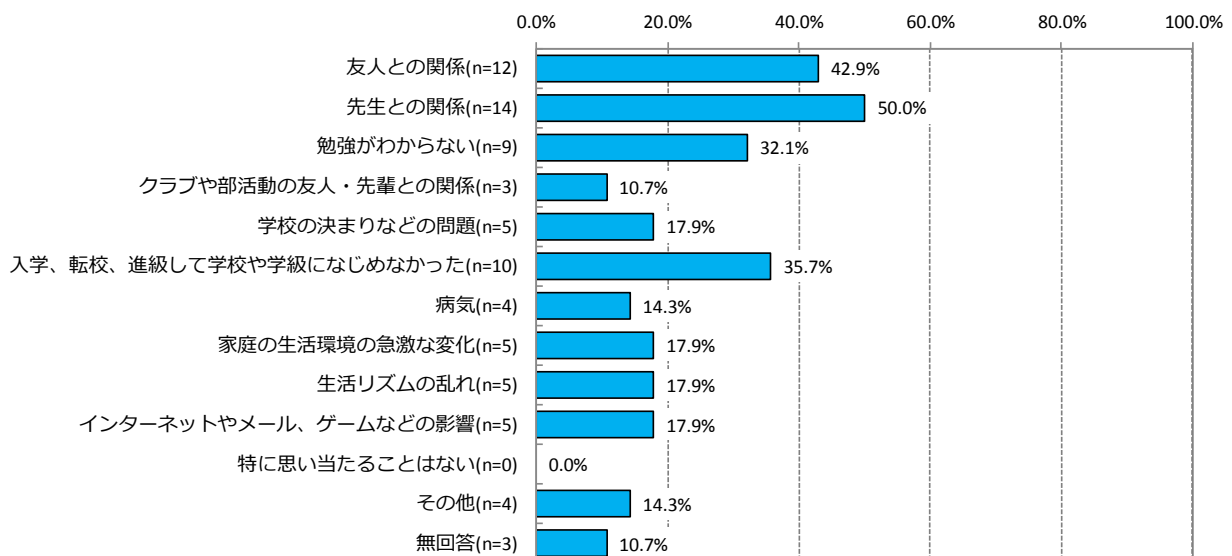


N = 363

(6) 不登校及びひきこもりのきっかけ (問 24)

不登校及びひきこもりのきっかけは、「先生との関係」が 50.0%で最も多く、「友人との関係」が 42.9%、「入学、転校、進級して学校や学級になじめなかった」が 35.7%で続いている。

図表 46 不登校及びひきこもりのきっかけ



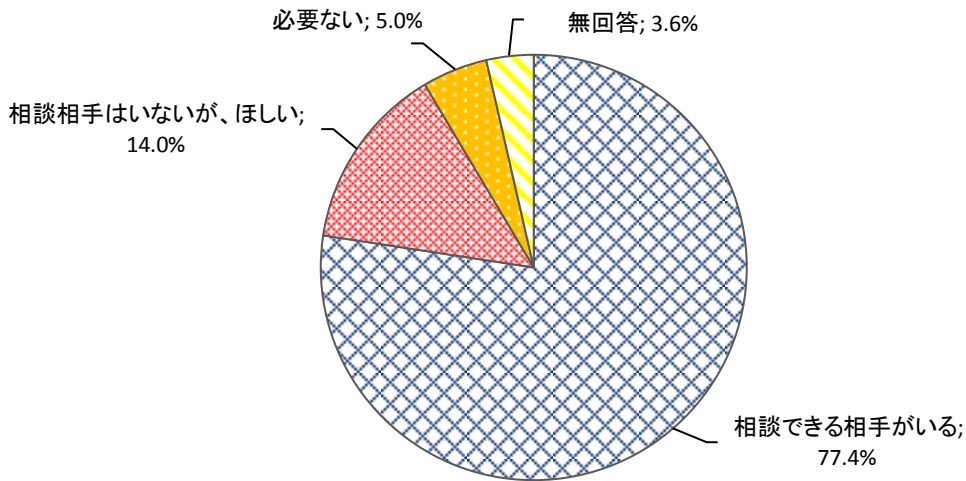
N = 28



(7) 子どもに関する悩みの相談相手の有無（問 25）

子どもに関する悩みを相談できる人については、「相談できる相手がいる」が 77.4%を占め、「相談相手はいないが、ほしい」が 14.0%で、「必要ない」という人は 5.0%となっている。

図表 47 子どもに関する悩みを相談できる人について



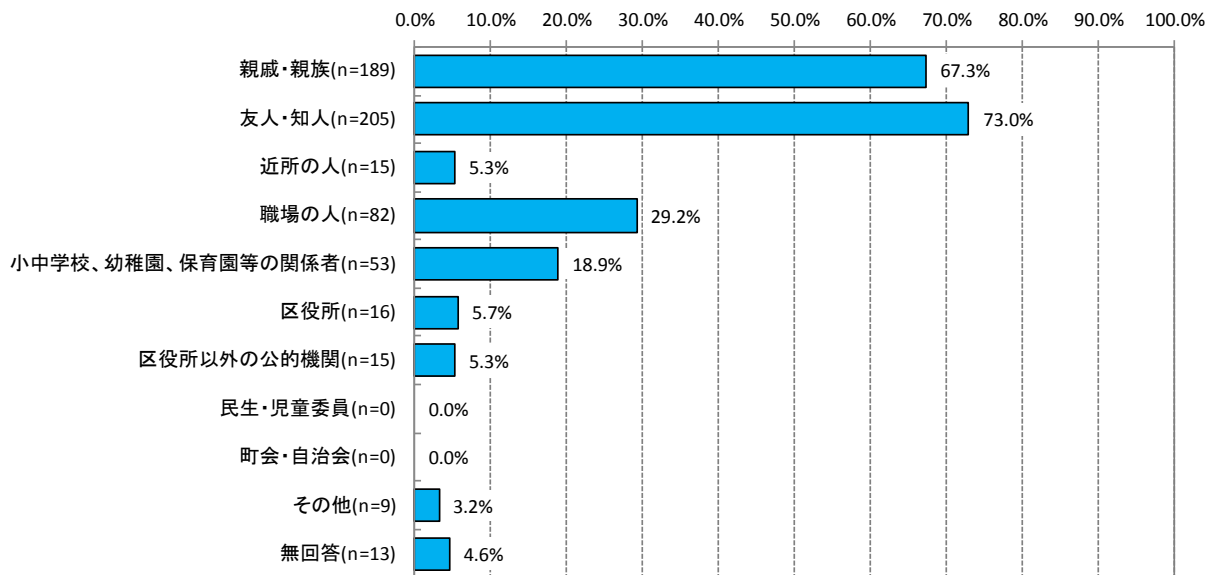
N = 363

(8) 相談相手、希望する相談相手（問 26）

相談相手がいる場合の相手は、「友人・知人」が 73.0%で最も多く、「親戚・親族」が 67.3%、「職場の人」が 29.2%と続く。

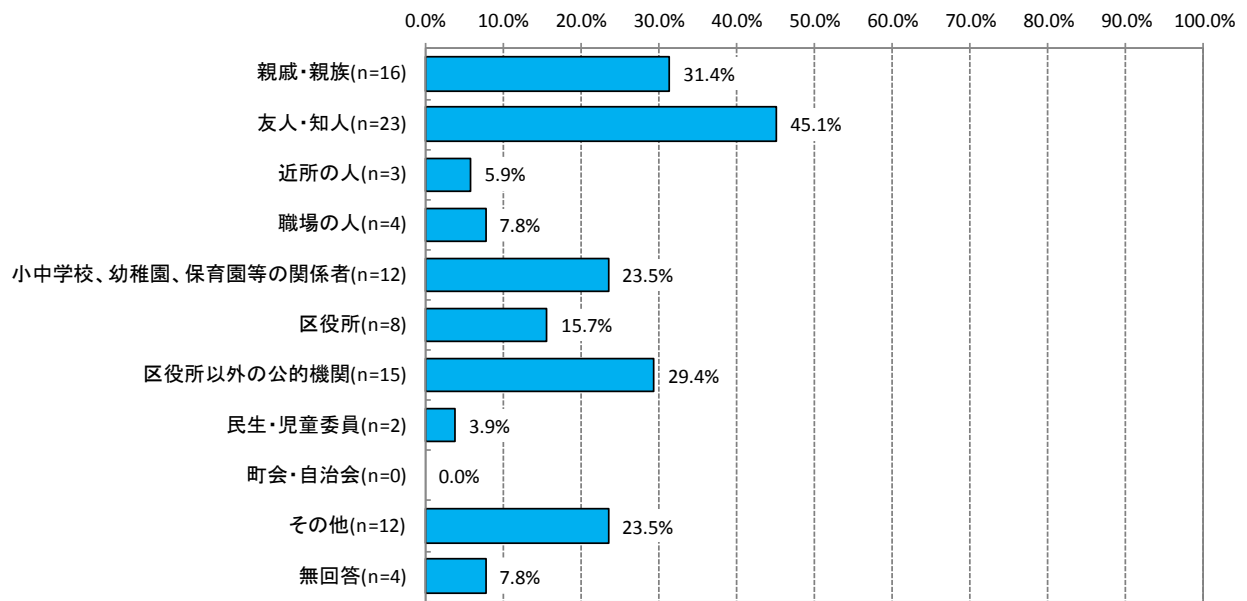
相談相手はいないが、欲しい場合の希望する相手は、「友人・知人」が 45.1%で最も多く、「親戚・親族」が 31.4%、「区役所以外の公的機関」が 29.4%と続く。

図表 48 相談できる相手がいる場合の相談相手



N = 281

図表 49 相談相手はいないが、欲しい場合の相談希望相手



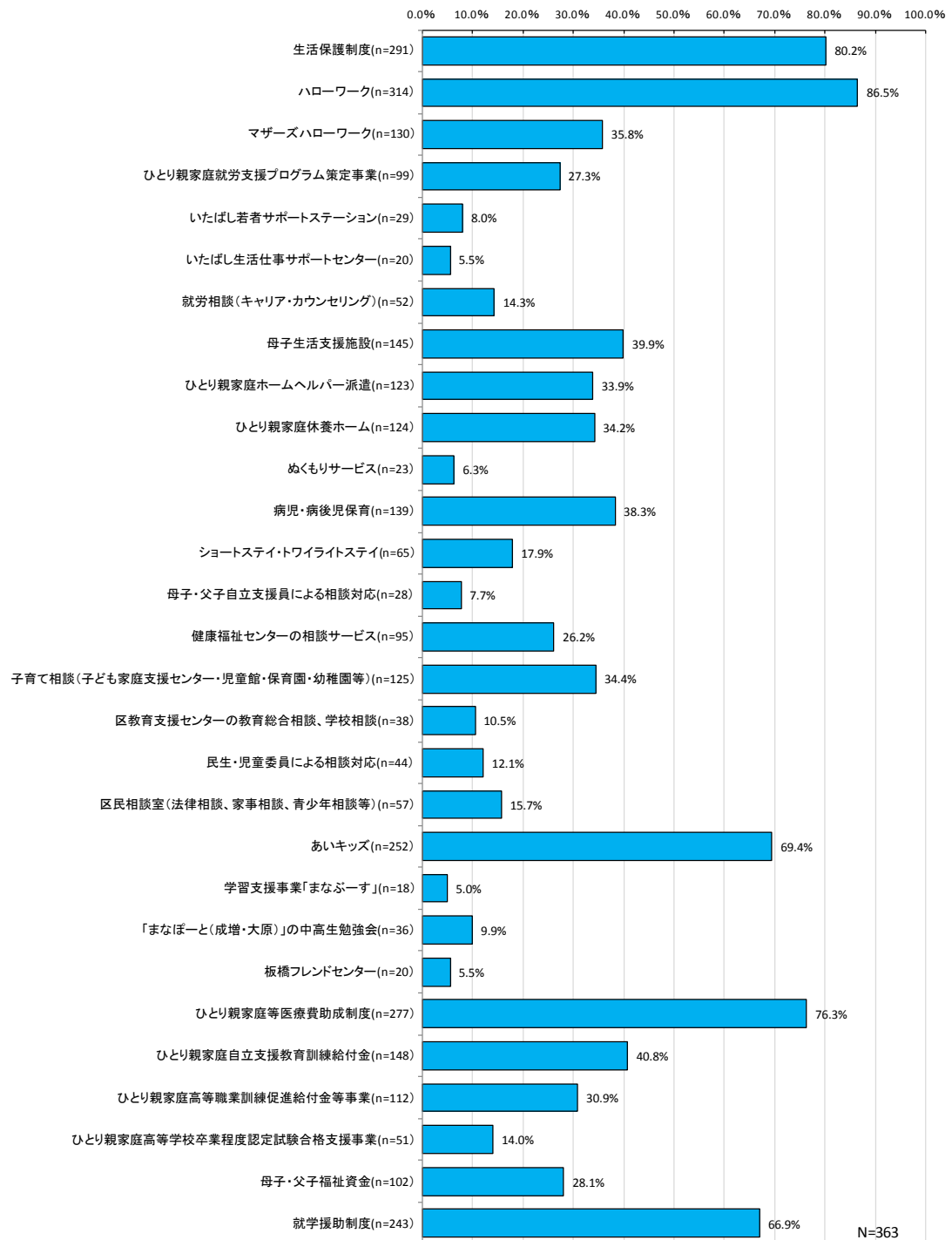
N = 51

#### 4. 各種支援制度の認知度と利用状況等

##### (1) 支援策の認知度及び利用状況（問 27）

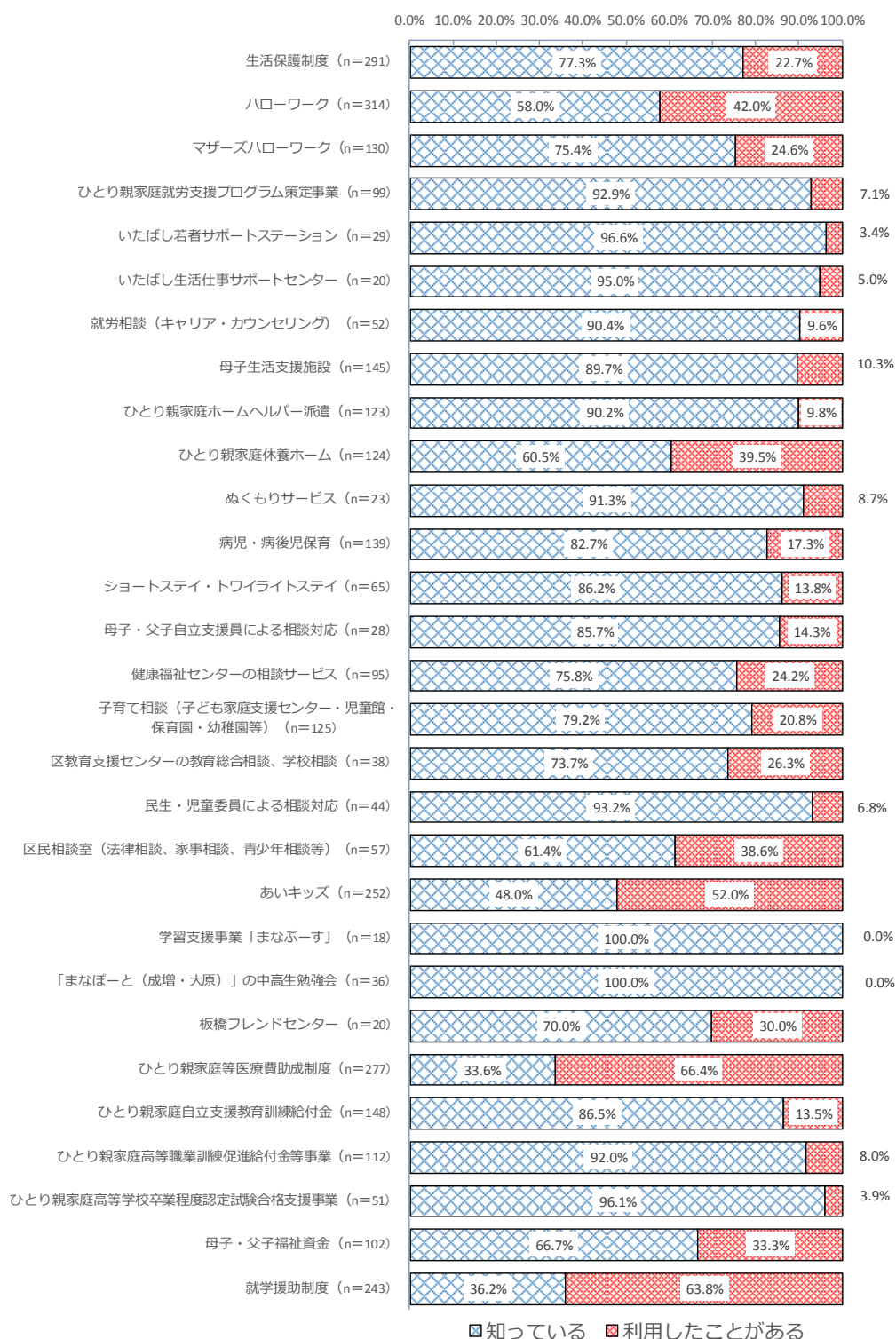
「子育て家庭への支援策」についての認知状況と利用状況を尋ねたところ、認知度の高いものは、「ハローワーク」が 86.5%、「生活保護制度」が 80.2%、「ひとり親家庭等医療費助成制度」が 76.3%、「あいキッズ」が 69.4%、「就学援助制度」が 66.9%と続いている。

図表 50 知っている制度



支援制度を知っている人のうち、半数以上が「利用したことがある」のは、「ひとり親家庭等医療費助成制度」(66.4%)、「就学援助制度」(63.8%)、「あいキッズ」(52.0%)となっている。

図表 51 支援制度を知っている人と利用したことがある割合

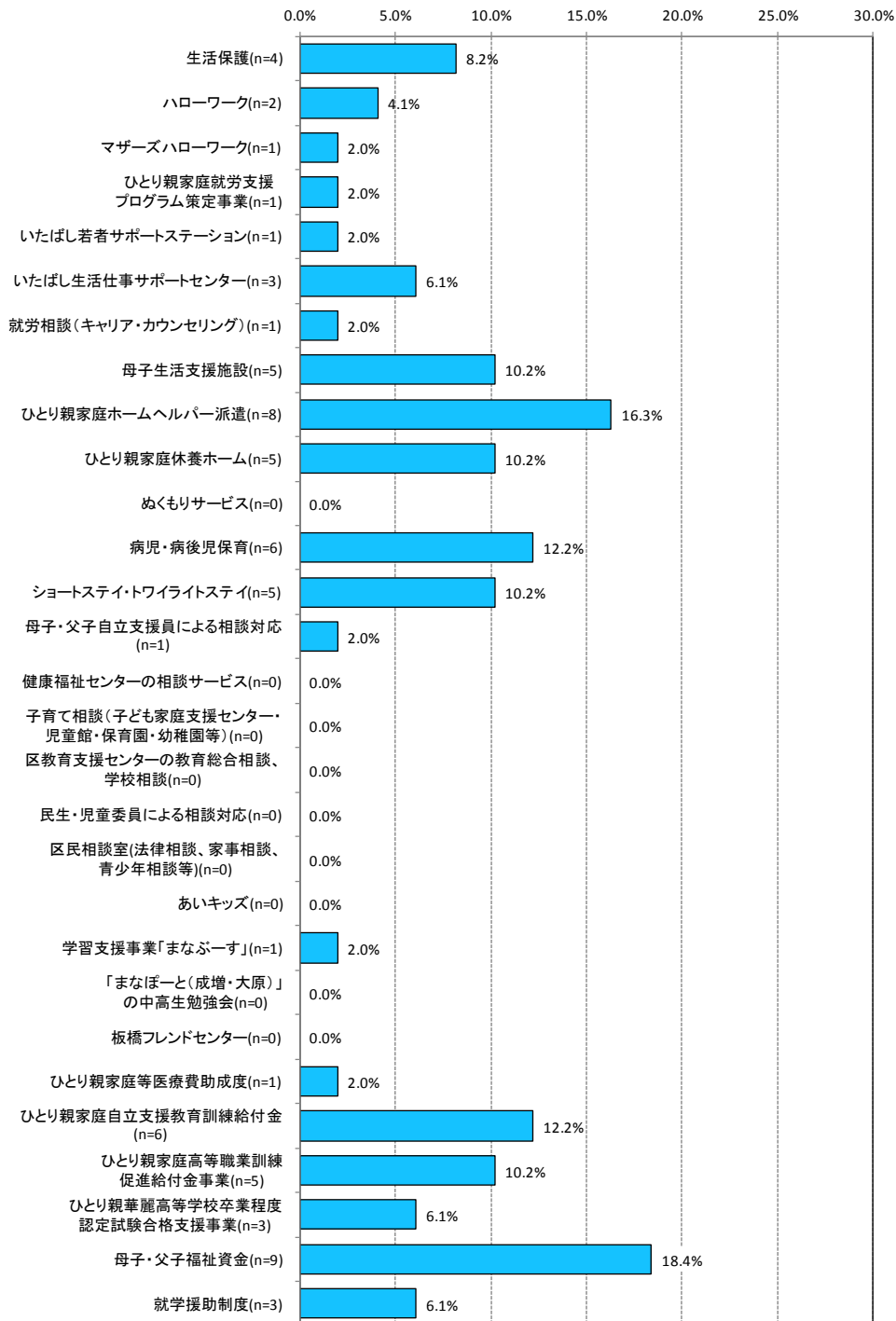


(2) 利用しなかったのに、利用できなかった制度とその理由

① 利用しなかったのに、利用できなかった制度（「子育て家庭への支援策」）（問 28-1）

「利用しなかったのに、利用できなかった」回答者は全体の 13.5%（49 人）で、その制度については、「母子・父子福祉資金」が 18.4%（9 人）で最も多く、「ひとり親家庭ホームヘルパー派遣」が 16.3%（8 人）、「病児・病後児保育」と「ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金」が 12.2%（6 人）などとなっている。

図表 52 利用しなかったのに、利用できなかった制度

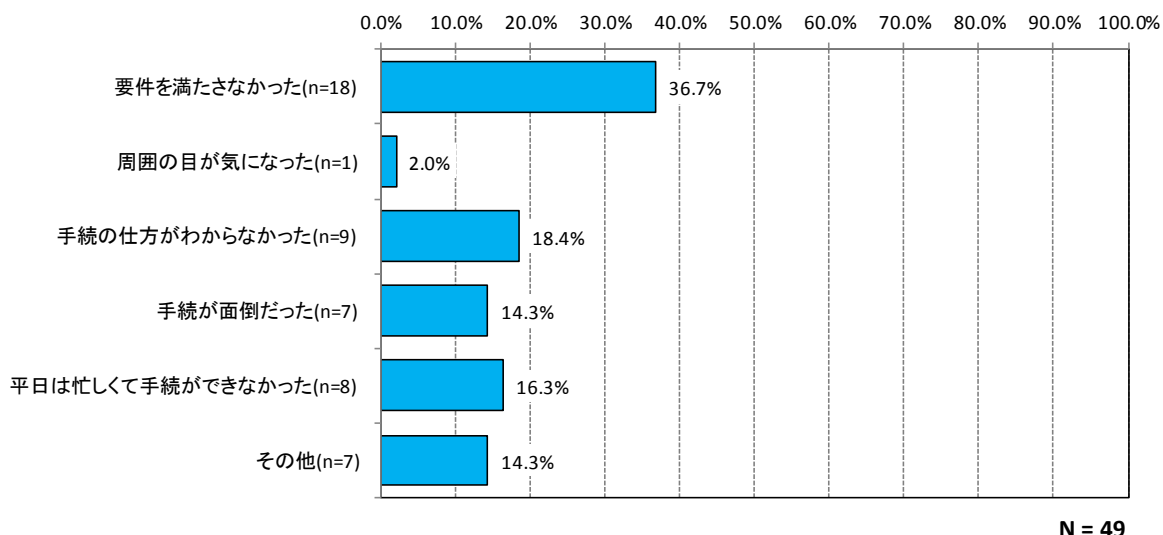


N = 49

## ② 利用したかったのに、利用できなかった理由（問 28-2）

「利用したかったのに、利用できなかった理由」は、「要件を満たさなかった」が 36.7%、「手続きの仕方がわからなかった」が 18.4%、「平日は忙しくて手続きができなかった」が 16.3%、「手続きが面倒だった」は 14.3%、「周囲の目が気になった」は 2.0%となっている。

図表 53 支援制度のうち、利用したかったのに、利用できなかった理由



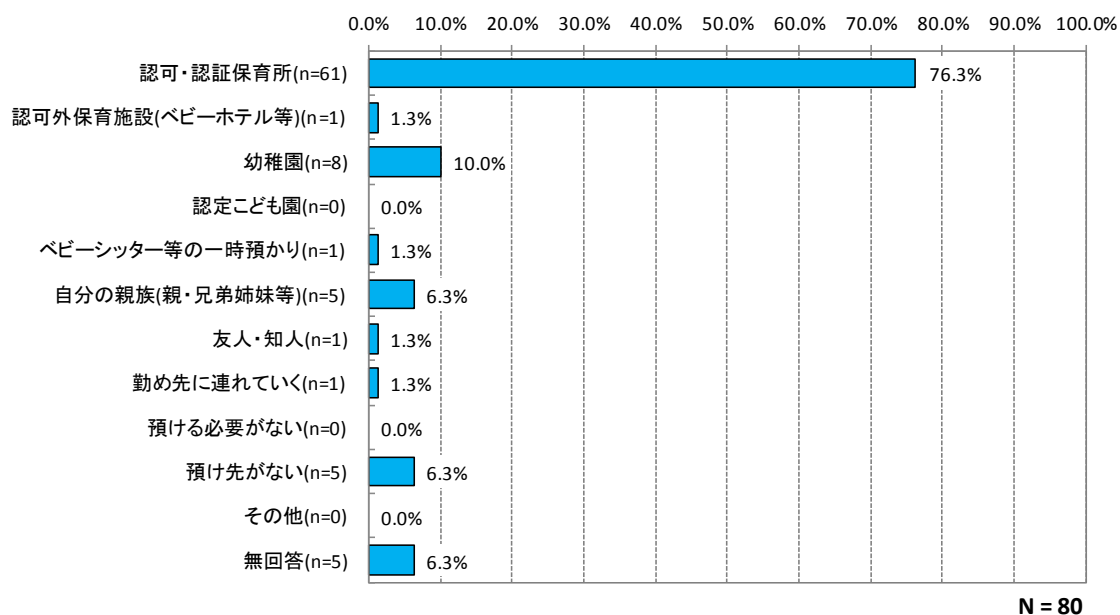
## 5. 子どもの生活状況等

本項のうち、(1)～(3)は、小学校入学前の子ども(乳幼児)のいる方に尋ねた(乳幼児が複数いる場合には、最年長の乳幼児の子どもについて尋ねた)。

### (1) 子どもを定期的に預ける場所（問 29）

子どもを定期的に預けているところは、「認可・認証保育所」が 76.3%で最も多く、次いで「幼稚園」が 10.0%、「自分の親族(親・兄弟姉妹等)」が 6.3%となっている。「預け先がない」という回答が 6.3%あった。

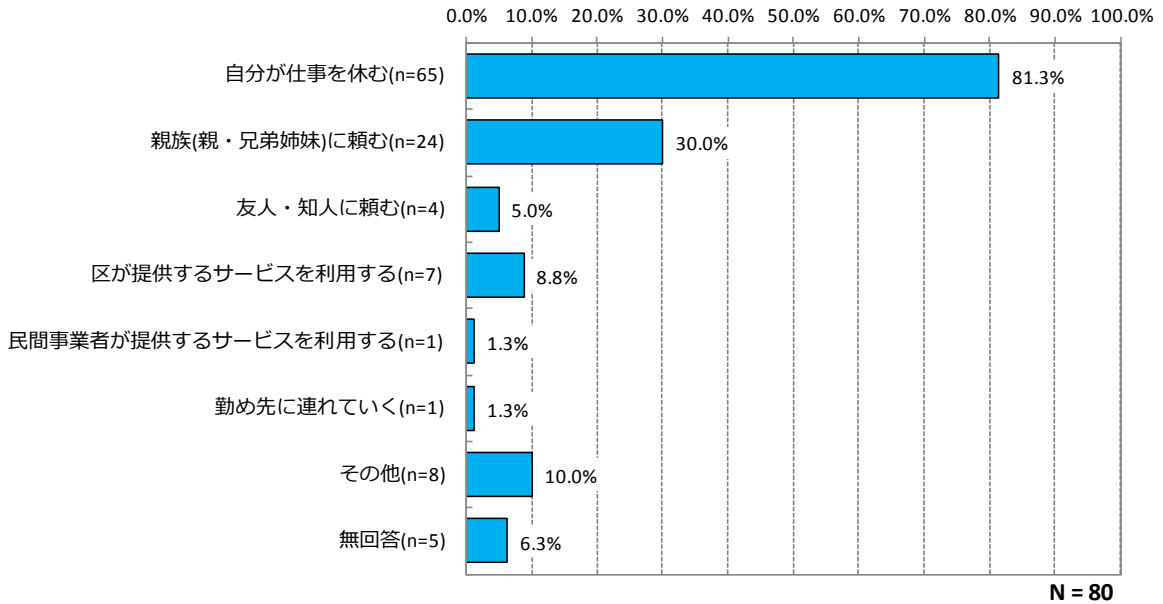
図表 54 子どもを定期的に預ける場所



(2) 子どもが病気のときの対応 (問 30)

子どもが病気のときの対応は、「自分が仕事を休む」が81.3%、次いで「親族(親・兄弟姉妹)に頼む」が30.0%、「区が提供するサービスを利用する」が8.8%となっている。

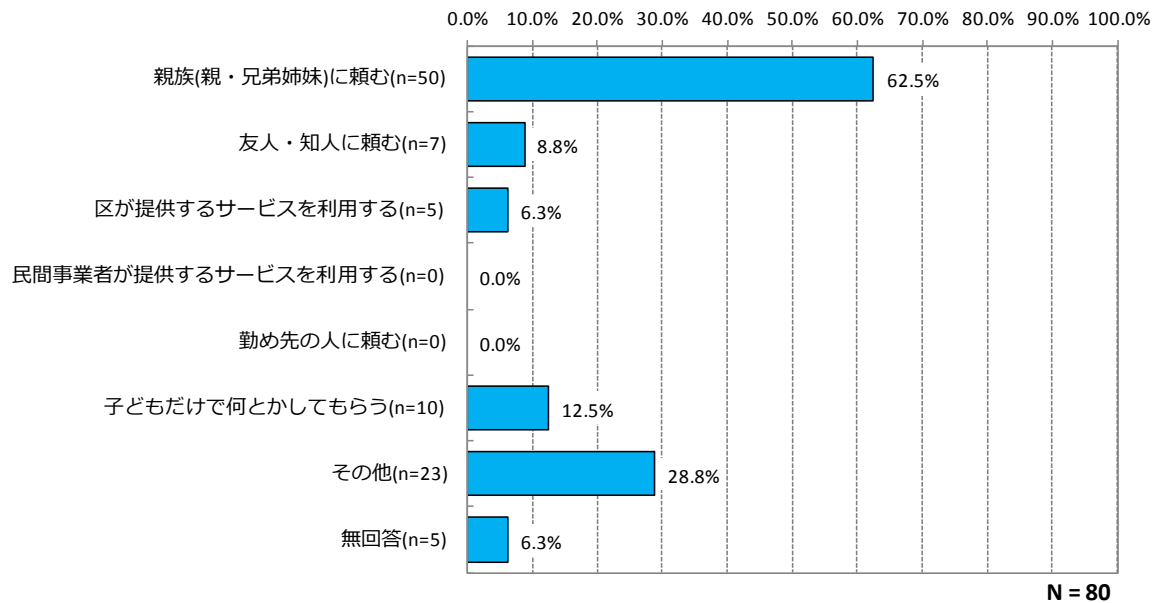
図表 55 子どもが病気のときの対応



(3) 自分が病気などで子どもの世話ができないときの対応 (問 31)

回答者が病気などで子どもの世話ができないときの対応は、「親族(親・兄弟姉妹)に頼む」が62.5%、次いで「子どもだけで何とかしてもらおう」が12.5%、「友人・知人に頼む」が8.8%、「区が提供するサービスを利用する」は6.3%、「その他」は28.8%となっているが、「自分で何とかする」という記載が大半を占めている。

図表 56 回答者が病気などで子どもの世話ができないとき、どうしているか。

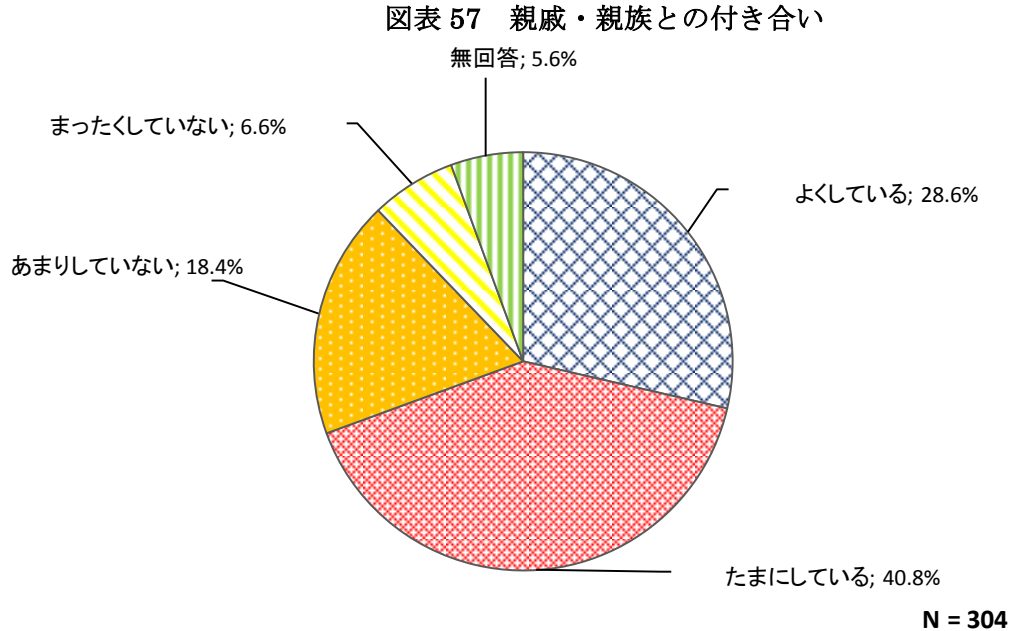


#### (4) 子どもの社会とのかかわりの状況

##### ① 親戚・親族との付き合い (問 32-1)

親戚・親族との付き合いについて、「よくしている」は28.6%、「たまにしている」が40.8%、「あまりしていない」18.4%、「まったくしていない」6.6%となっている。約7割が親戚・親族とつきあいをしていると回答している。

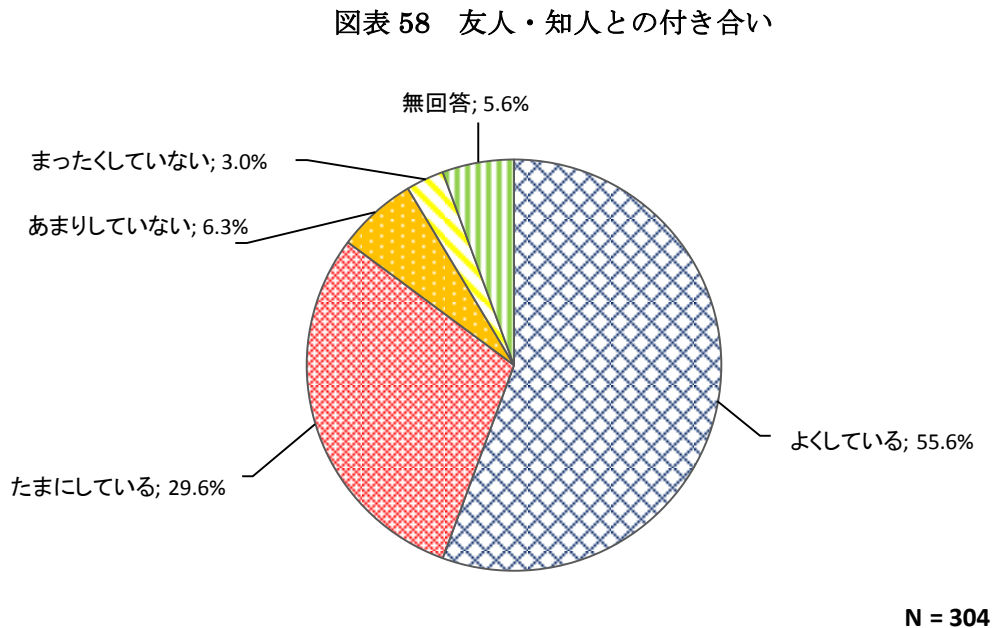
これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が82.8%に対して、中学生が64.7%となっている(巻末資料図表92)。



##### ② 友人・知人との付き合い (問 32-2)

友人・知人との付き合いについて、「よくしている」は55.6%、「たまにしている」が29.6%、「あまりしていない」6.3%、「まったくしていない」3.0%となっている。親戚・親族との付き合い(①)より、友人・知人との付き合いの方が高い割合となっている。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が90.3%に対して、中学生が79.5%となっている(巻末資料図表93)。



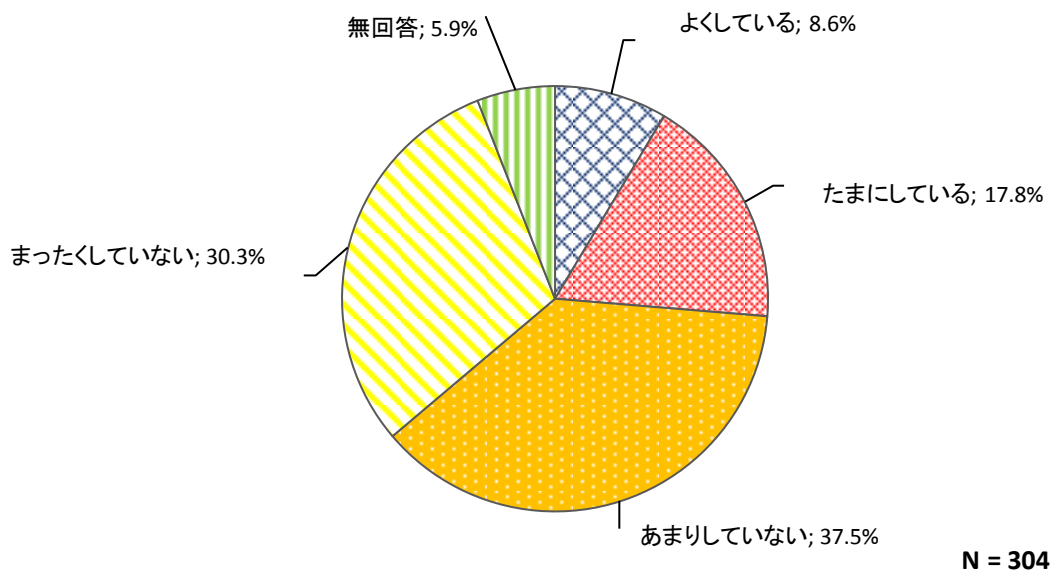


### ③ 近所の人との付き合い（問 32-3）

近所の人との付き合いについて、「よくしている」は 8.6%、「たまにしている」が 17.8%、「あまりしていない」37.5%、「まったくしていない」30.3%となっている。「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が 7割近くになっている。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 39.8%に対して、中学生が 27.9%となっている（巻末資料図表 94）。

図表 59 近所の人との付き合い

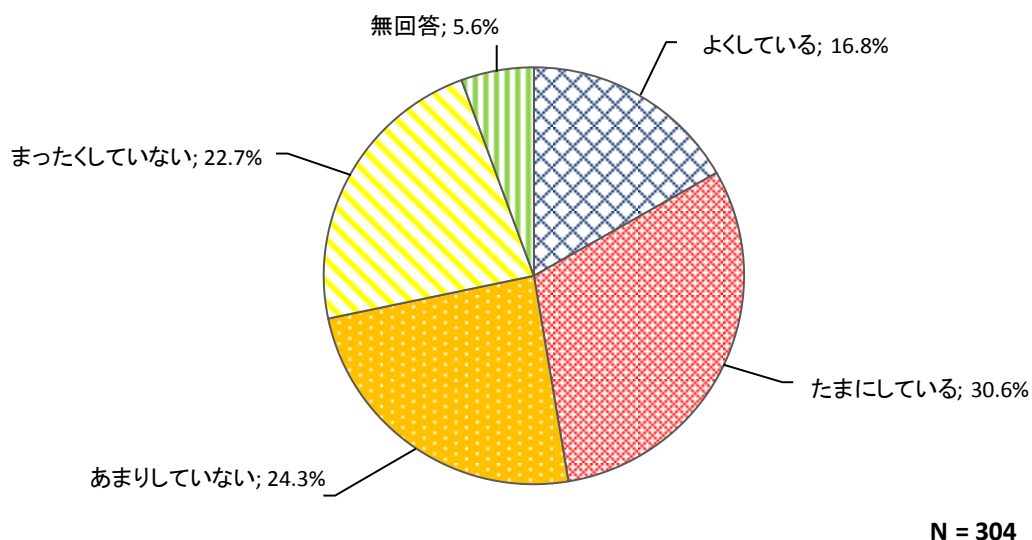


### ④ 地域の行事（お祭り等）への参加（問 32-4）

地域の行事（お祭り等）への参加は、「よくしている」が 16.8%、「たまにしている」が 30.6%、「あまりしていない」24.3%、「まったくしていない」22.7%となっている。近所の人との付き合い（③）ほどは低くない。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 64.5%に対して、中学生が 51.5%となっている（巻末資料図表 95）。

図表 60 地域の行事（お祭り等）への参加

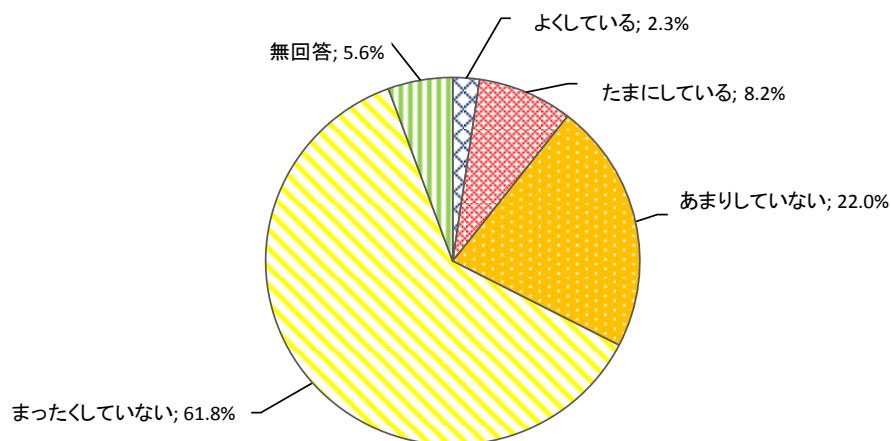


### ⑤ ボランティア等の社会的活動への参加（問 32-5）

ボランティア等の社会的活動への参加について、「よくしている」は 2.3%、「たまにしている」が 8.2%、「あまりしていない」22.0%、「まったくしていない」61.8%となっており、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が 8 割を超えている。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 16.2%に対して、中学生が 8.8%となっている（巻末資料図表 96）。

図表 61 ボランティア等の社会的活動への参加



N = 304

### （5） 子どもの過去 1 か月の様子

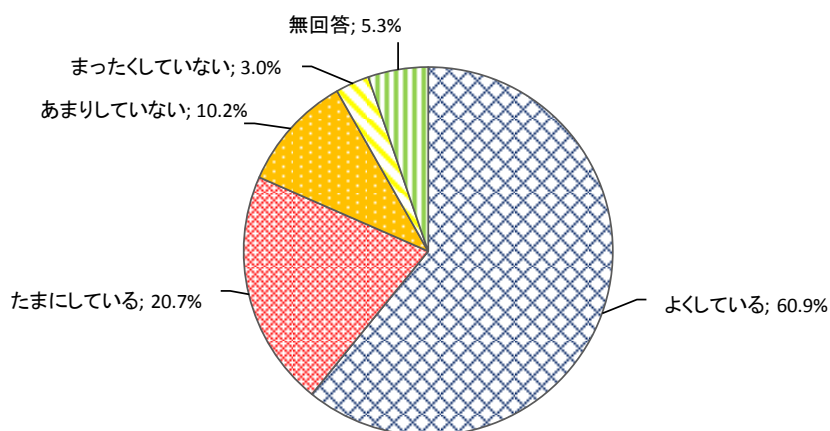
小学生以上の子どものいる方に子どもの過去 1 か月の様子について尋ねた。

#### ① 決まった時間に寝起きしている（問 33-1）

子どもが過去 1 か月に、決まった時間に寝起きしているかについて、「よくしている」が 60.9%、「たまにしている」が 20.7%に対し、「あまりしていない」が 10.2%、「まったくしていない」が 3.0%であり、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が 13.2%となっている。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 90.3%に対して、中学生が 83.8%となっている（巻末資料図表 97）。

図表 62 決まった時間に寝起きしている



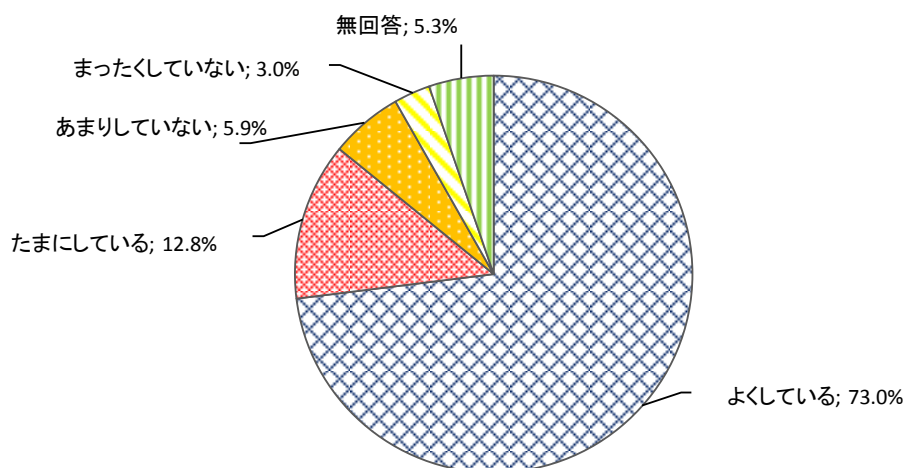
N = 304

## ② 朝食を毎日食べている（問 33-2）

朝食を毎日食べているかどうかについて、「よくしている」が73.0%、「たまにしている」が12.8%に対し、「あまりしていない」が5.9%、「まったくしていない」が3.0%であり、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が8.9%である。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が94.6%に対して、中学生が88.2%となっている（巻末資料図表98）。

図表 63 朝食を毎日食べている



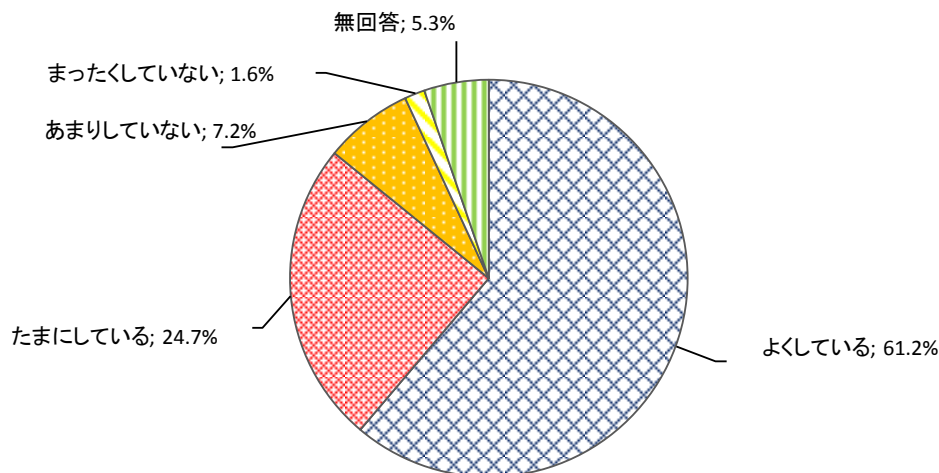
N = 304

## ③ まわりの人にあいさつする（問 33-3）

まわりの人にあいさつをするかについて、「よくしている」が61.2%、「たまにしている」が24.7%に対し、「あまりしていない」が7.2%、「まったくしていない」が1.6%であり、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が8.8%である。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が90.3%に対して、中学生が85.3%となっている（巻末資料図表99）。

図表 64 まわりの人にあいさつする



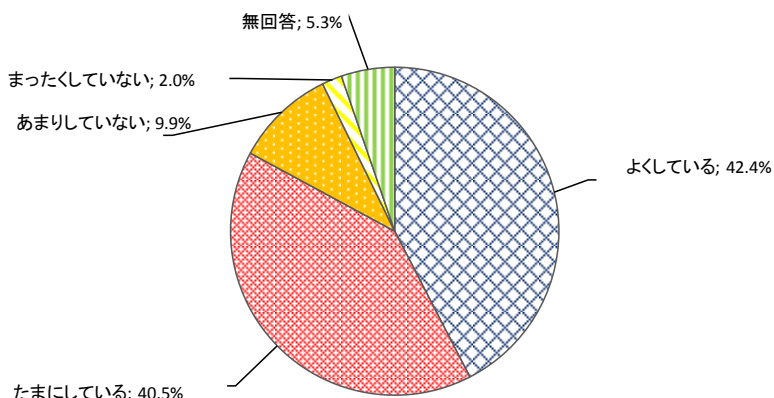
N = 304

#### ④ 家庭で決めたルールや公共のマナーを守る（問 33-4）

家庭で決めたルールや公共のマナーを守るかについて、「よくしている」が 42.4%、「たまにしている」が 40.5%に対し、「あまりしていない」が 9.9%、「まったくしていない」が 2.0%であり、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が 11.9%である。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 90.3%に対して、中学生が 79.4%となっている（巻末資料図表 100）。

図表 65 家庭で決めたルールや公共のマナーを守る



N = 304

#### ⑤ 物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる（問 33-5）

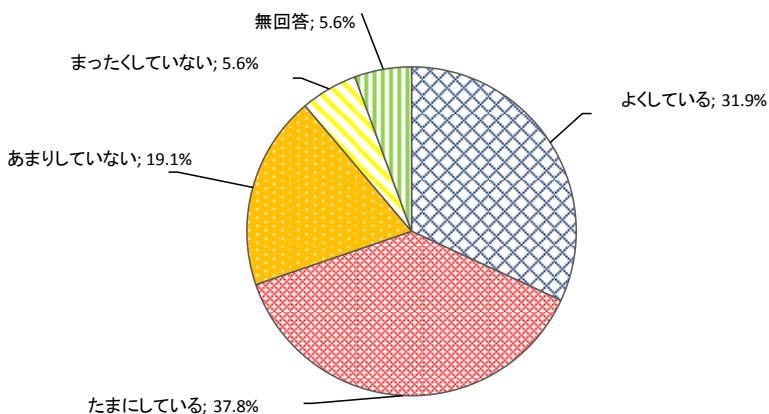
物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいるかについて、「よくしている」が 31.9%、「たまにしている」が 37.8%に対し、「あまりしていない」が 19.1%、「まったくしていない」が 5.6%であり、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が 24.7%である。

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 77.4%に対して、中学生が 55.9%となっている（巻末資料図表 101）。

なお、平日に親と一緒に過ごす時間が 3 時間以上の子どもはそれ未満の子どもと比べて、「物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる」かについて「よくしている」又は「たまにしている」割合が高い（問 21×問 33-5。巻末資料図表 102）。

また、「近所の人との付き合い」や「ボランティア活動等の社会的活動への参加」を「よくしている」又は「たまにしている」子どもは、これらを「あまりしていない」又は「まったくしていない」子どもと比べて、「物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる」かについて「よくしている」又は「たまにしている」割合が高い（問 32-3, 5×問 33-5。巻末資料図表 103・104）。

図表 66 物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる



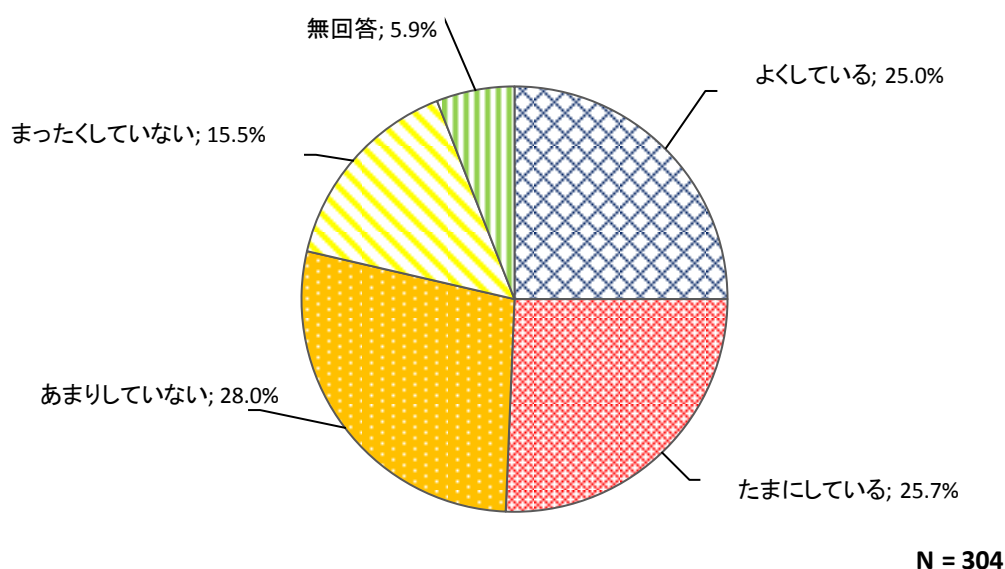
N = 304

⑥ 本を読んでいる（問 33-6）

本を読んでいるかについて、「よくしている」が 25.0%、「たまにしている」が 25.7%に対し、「あまりしていない」が 28.0%、「まったくしていない」が 15.5%であり、「あまりしていない」又は「まったくしていない」割合が4割を超えている。+

これを年齢層別にみると、「よくしている」又は「たまにしている」割合は、小学生が 61.3%に対して、中学生が 47.1%となっている（巻末資料図表 105）。

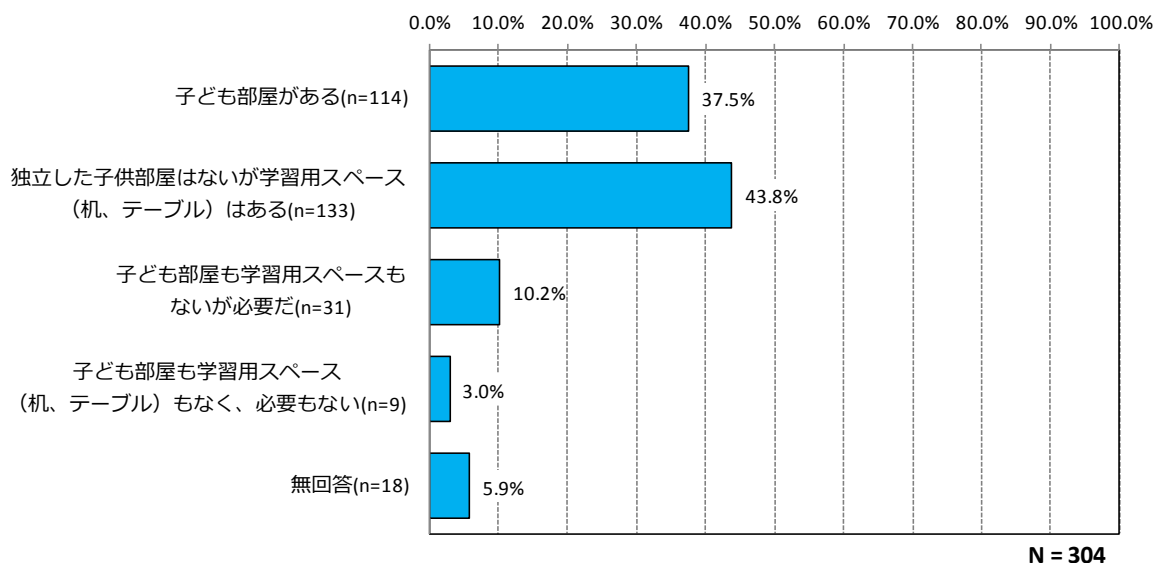
図表 67 本を読んでいる



(6) 子ども部屋・子どもが利用できる学習用スペースの有無（問 34）

子ども部屋・子どもが利用できる学習スペースの状況は、「独立した子ども部屋はないが学習用スペース（机、テーブル）はある」が 43.8%、「子ども部屋がある」が 37.5%であり、8割以上（81.3%）が学習用スペースはあると回答している。一方、「子ども部屋も学習スペースもないが必要だ」が 10.2%、「子ども部屋も学習用スペース（机、テーブル）もなく、必要もない」が 3.0%あった。

図表 68 子ども部屋、又は子どもが利用できる学習用スペースについて

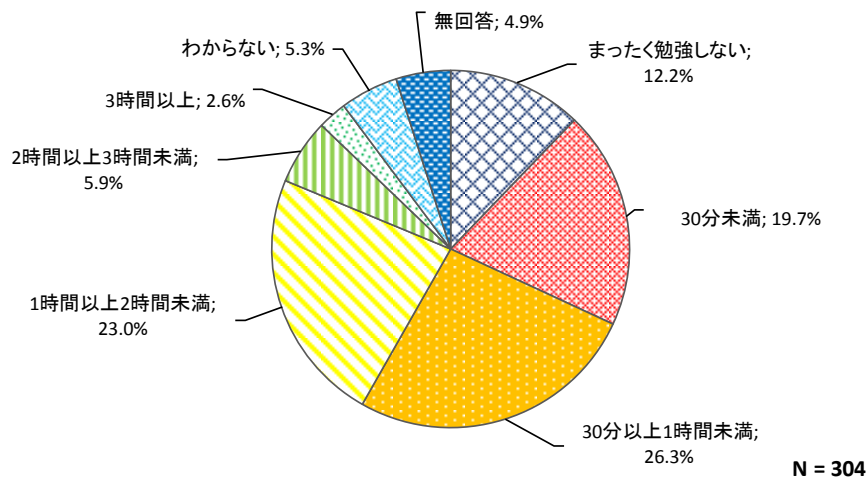


(7) 学校の授業時間以外の勉強時間（平日）（問 35）

学校の授業時間以外の平日における勉強時間は、「30分以上1時間未満」が26.3%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が23.0%となっている。「30分未満」が19.7%、「まったく勉強しない」が12.2%で、31.9%が30分未満の勉強時間である一方、「2時間以上3時間未満」が5.9%、「3時間以上」が2.6%で、8.5%が2時間以上の勉強時間をとっている。

これを年齢層別にみると、勉強時間が1時間以上の割合は、小学生が23.7%、中学生が33.9%と年齢が高くなるにつれ、勉強時間が増える傾向にあるが、他方で、「まったく勉強しない」割合も、小学生が6.5%、中学生が11.8%と年齢が高くなるにつれ、増える傾向にある(巻末資料図表106)。

図表 69 学校の授業時間以外の平日における勉強時間

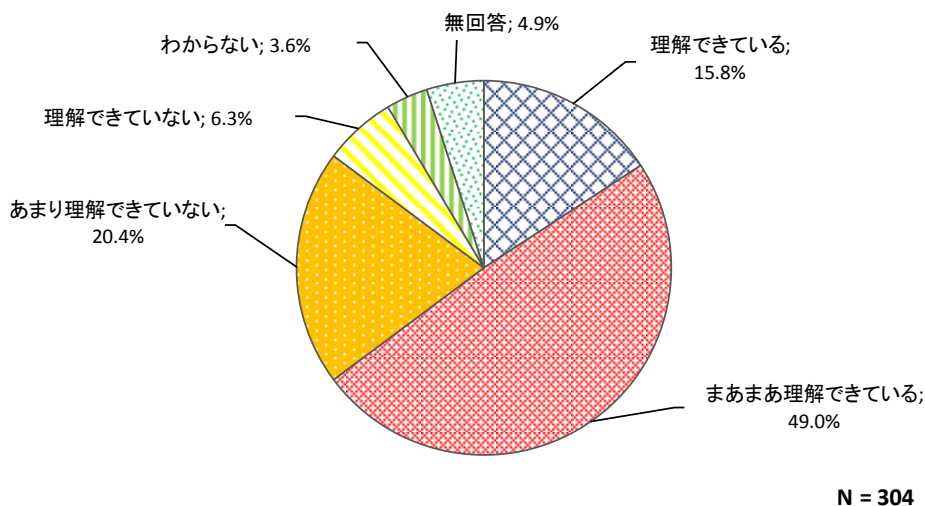


(8) 子どもの学習の理解度（問 36）

子どもの学習の理解度は、「まあまあ理解できている」が49.0%と半数近く、「理解できている」の15.8%と合わせると、6割以上(64.8%)の子どもは「理解できている」。一方、「あまり理解できていない」が20.4%、「理解できていない」が6.3%で、両者を合わせると26.7%と4人に1人に達している。子どもの学校での学習状況について「わからない」が3.6%あった。

これを年齢層別にみると、「理解できている」又は「まあまあ理解できている」割合は、小学生が75.2%、中学生が48.5%、中学校卒業後就学中が65.7%となっている(巻末資料図表107)。

図表 70 回答者から見た子どもの学校での学習状況



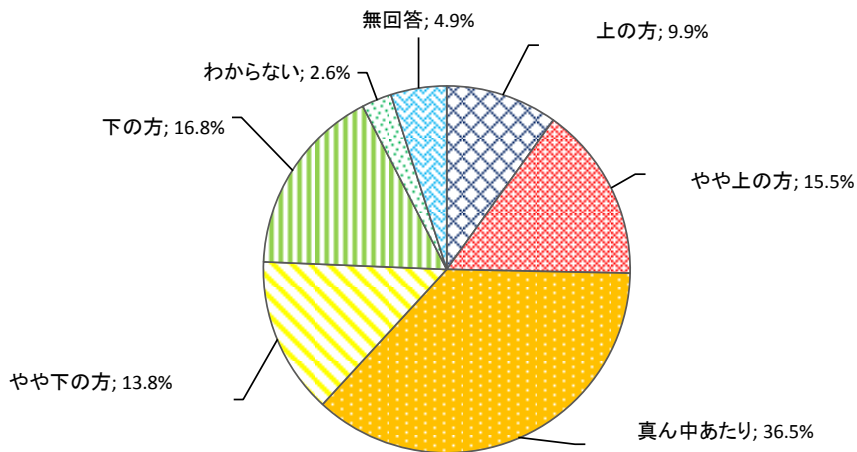
**(9) 子どもの成績 (問 37)**

子どもの成績は、「真ん中あたり」が 36.5%で最も高く、「上の方」が 9.9%、「やや上の方」15.5%、「やや下の方」が 13.8%、「下の方」16.8%となっている。子どもの成績について「わからない」が 2.6%となっている。

これを年齢層別にみると、成績が「上の方」又は「やや上の方」の割合は、小学生が 29.0%、中学生が 16.2%、中学校卒業後就学中が 26.1%となっている(巻末資料図表 108)。

なお、「本を読んでいる」子ども(問 33-6)・「物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる」子ども(問 33-5)ほど、学校の授業時間以外の勉強時間(問 35)が長く、学習の理解度(問 36)・成績(問 37)が良好な傾向がある(問 33-6×問 35~37、問 33-5×問 35~37。巻末資料図表 109~114)。

**図表 71 回答者から見た子どもの成績**



**N = 304**

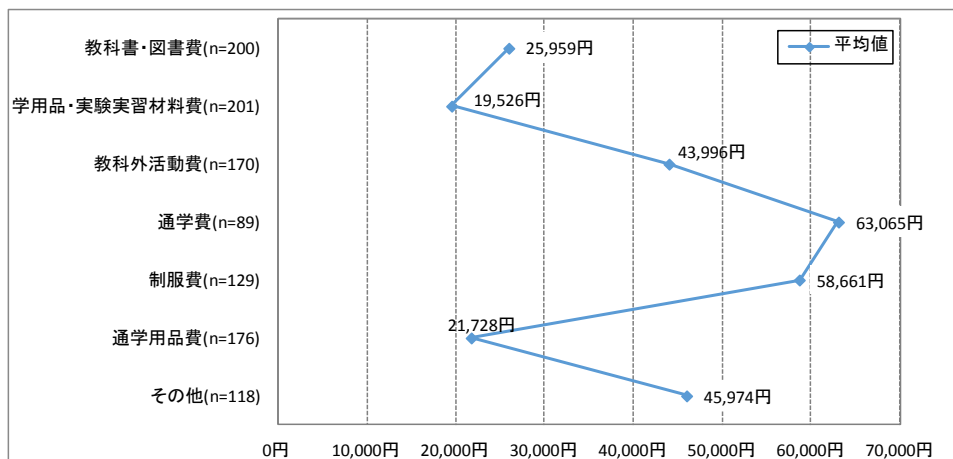
**(10) 過去1年間のおおよその子どもの学習費支出 (問 38)**

子どものために過去1年間に支出した学習費用について尋ねた。

学習にかかる費用科目(「その他」を含む7項目)については、もっとも費用が掛かるのは「通学費」、次いで「制服費」、「教科外活動費」など一時的にまとまってかかると考えられる費用が高くなっている。以下、①~⑦の費用科目ごとに分布状況をまとめた。

なお、過去1年間のおおよその学習費支出が5万円以上の割合を年齢層別にみると、小学生が 29.1%、中学生が 60.3%、中学校卒業後就学中が 70.9%と年齢が上がるほど学習費支出が増えている(巻末資料図表 115)。

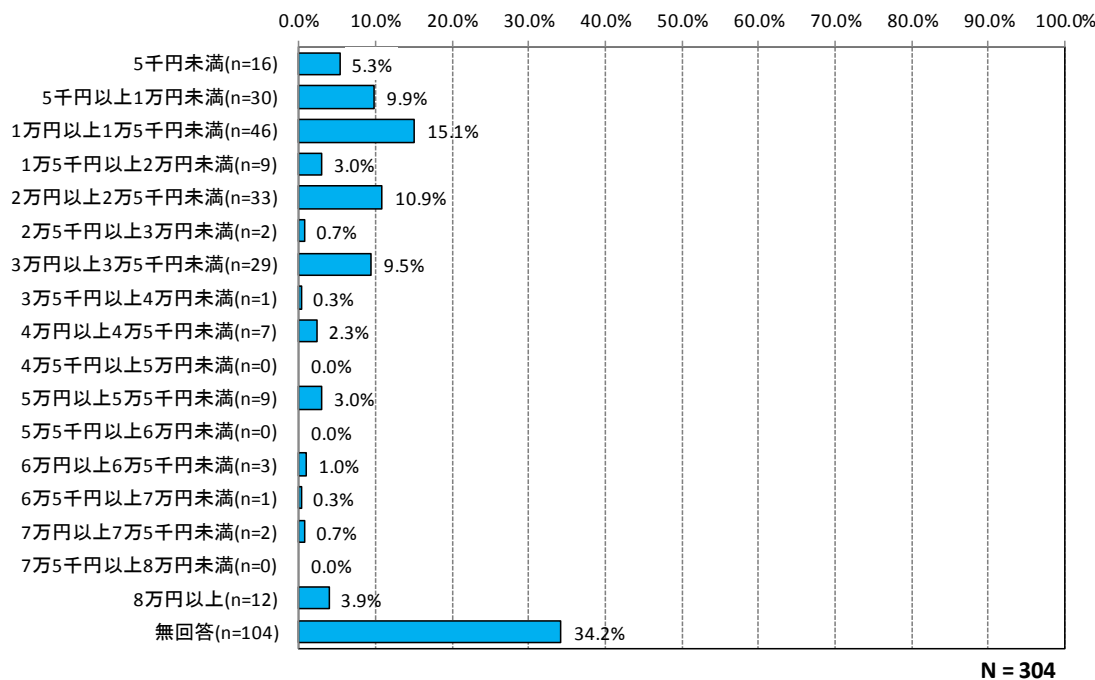
**図表 72 学習費支出(平均値)**



① 教科書・図書費（問 38-1）

教科書・図書費にかかった1年間の費用は、平均額で25,959円となっており、月あたりにすると2,163円である。

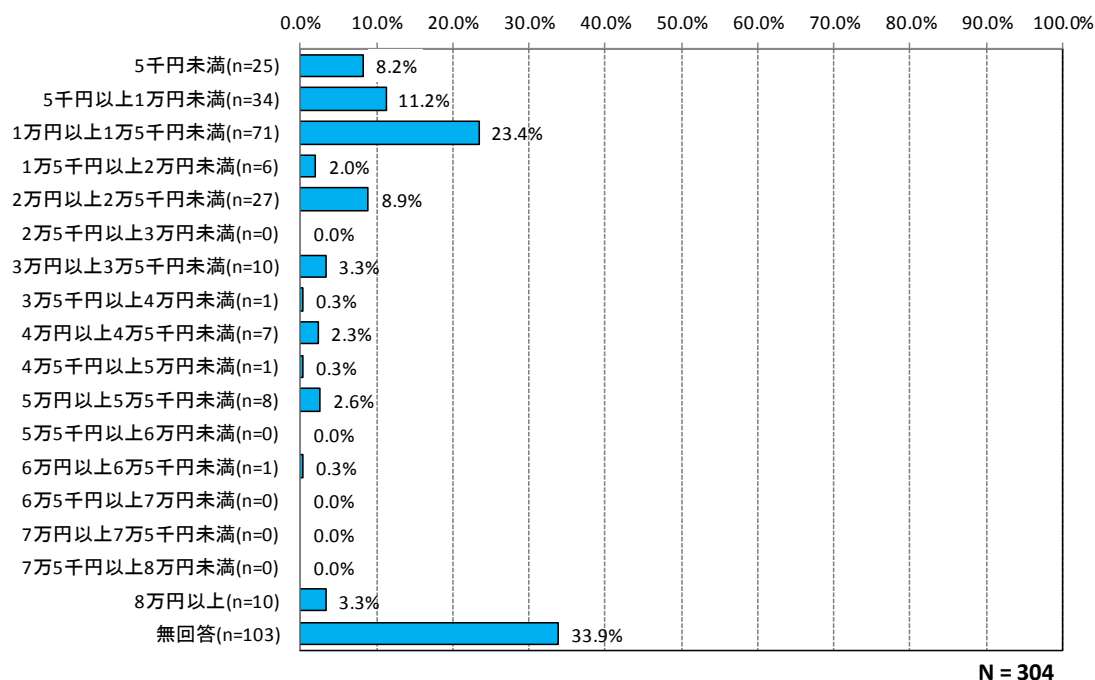
図表 73 教科書・図書費



② 学用品・実験実習材料費（文房具、体育用品、楽器、製図、裁縫用具や調理実習の費用など）（問 38-2）

学用品・教育実習教材費の1年間の費用は、平均額で19,526円となっており、月あたりにすると1,627円である

図表 74 学用品・実験実習材料費

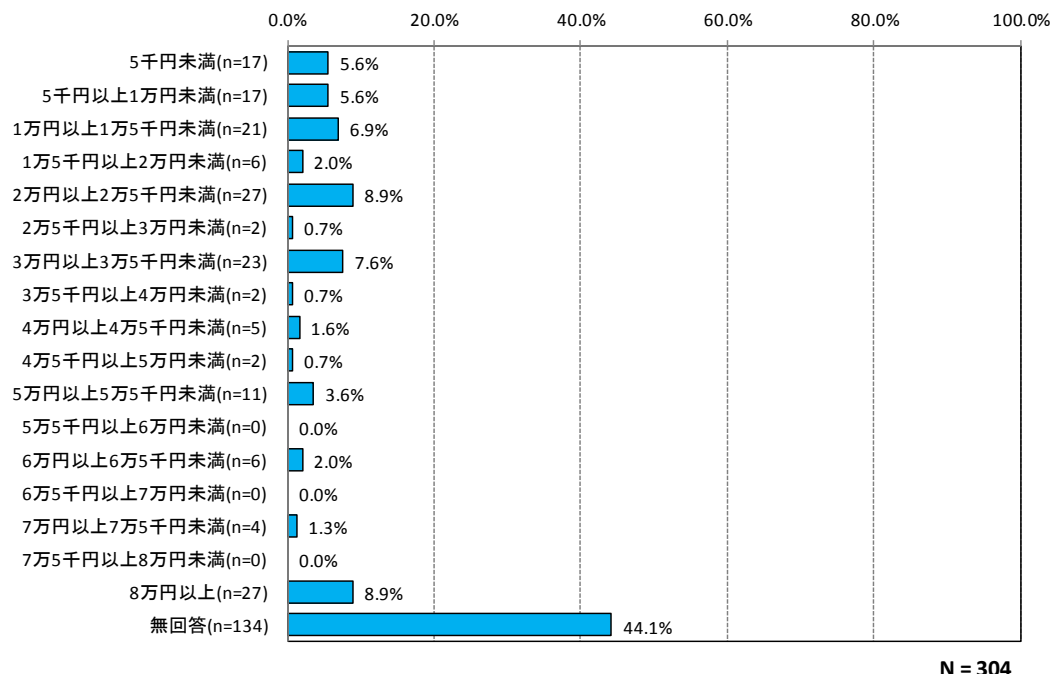




③ 教科外活動費（クラブ活動、学芸会、運動会、児童会、生徒会、林間学校などのために支出した費用）（問 38-3）

教科外活動費の1年間の費用は、平均額で43,996円となっており、月あたりにすると3,666円である。

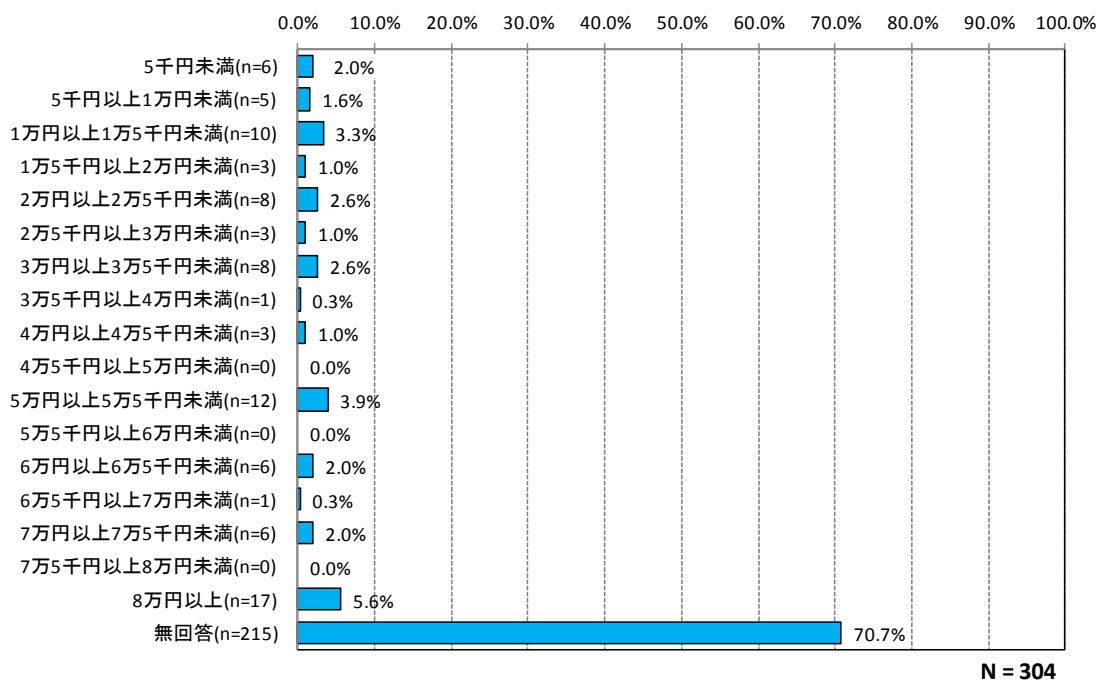
図表 75 教科外活動費



④ 通学費（通学のための交通費、通学用自転車購入費など）（問 38-4）

通学費の1年間の費用は、平均額で63,065円となっており、月あたりにすると5,255円となり1年間でかかる費用では最も高い。

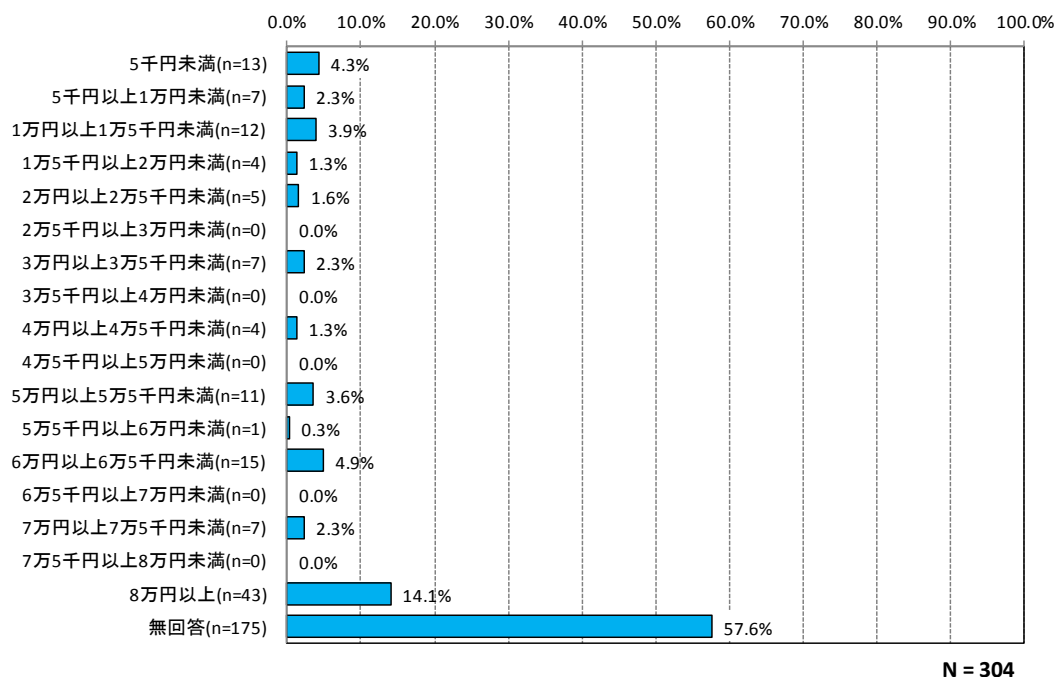
図表 76 通学費



⑤ 制服費（問 38-5）

制服費の1年間の費用は、平均額で58,661円となっており、月あたりにすると4,888円である。

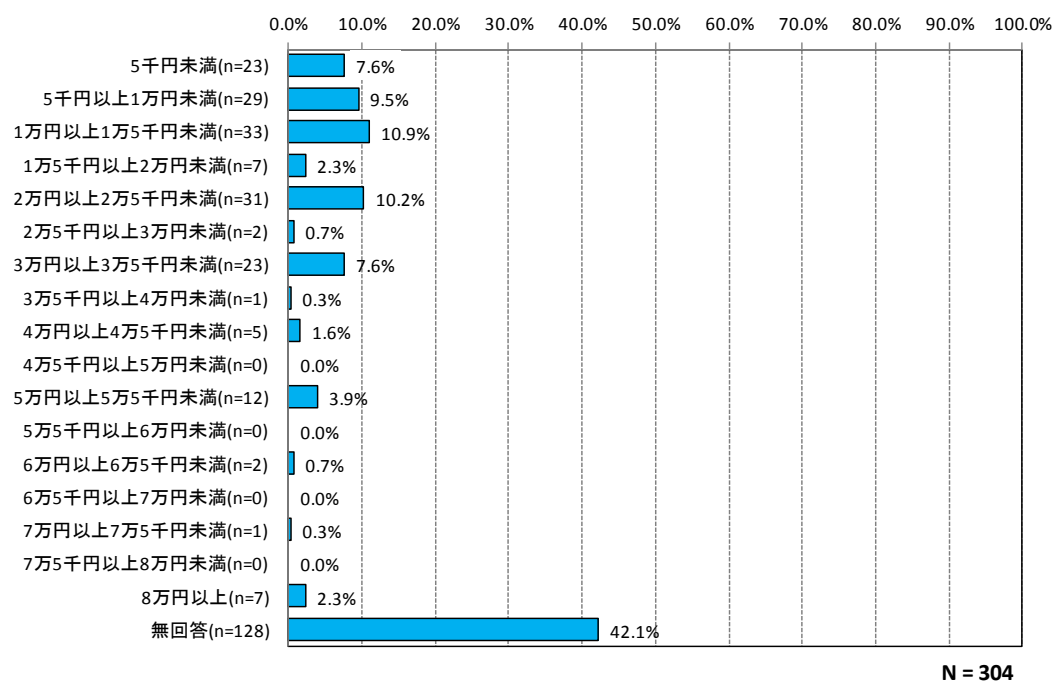
図表 77 制服費



⑥ 通学用品費(通学のために必要な物品の購入、例：ランドセル、鞆、雨傘など)(問 38-6)

通学用品費の1年間の費用は、平均額で21,728円となっており、月あたりにすると1,810円である。

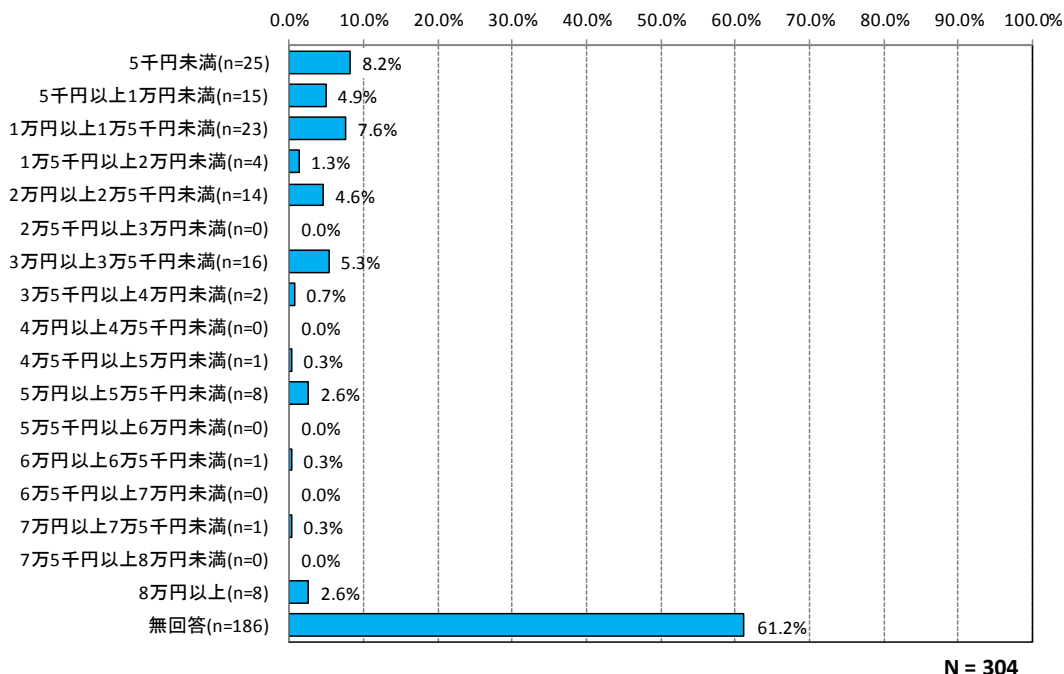
図表 78 通学用品費



⑦ その他（上記以外の経費で学校の徽章・バッジ、上履き、卒業記念写真、アルバムの代金など）（問 38-7）

その他にかかる 1 年間の費用は、平均額で 45,974 円となっており、月あたりにすると 3,831 円である。

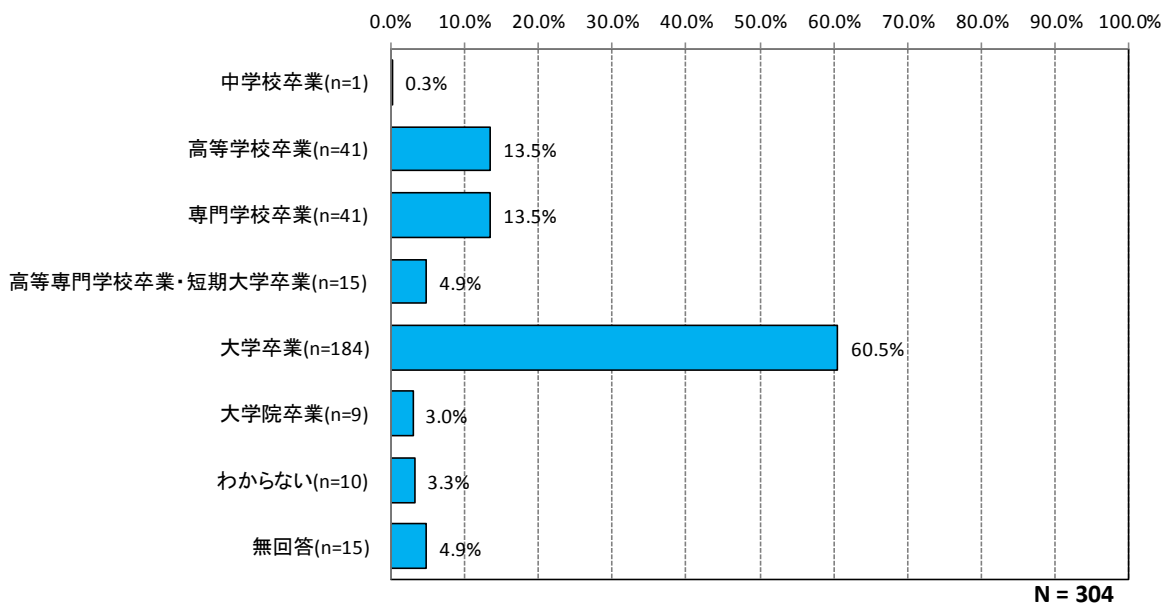
図表 79 その他の費用



(11) 子どもに望む進学（問 39-1）

子どもに望む進学は、「大学卒業」を望む割合が 60.5%と最も高く、次いで「専門学校卒業」と「高等学校卒業」がそれぞれ 13.5%、「高等専門学校卒業、短期大学卒業」が 4.9%、「大学院卒業」は 3.0%となっており、これらを合わせると 95.4%が高校卒業以上を希望している。

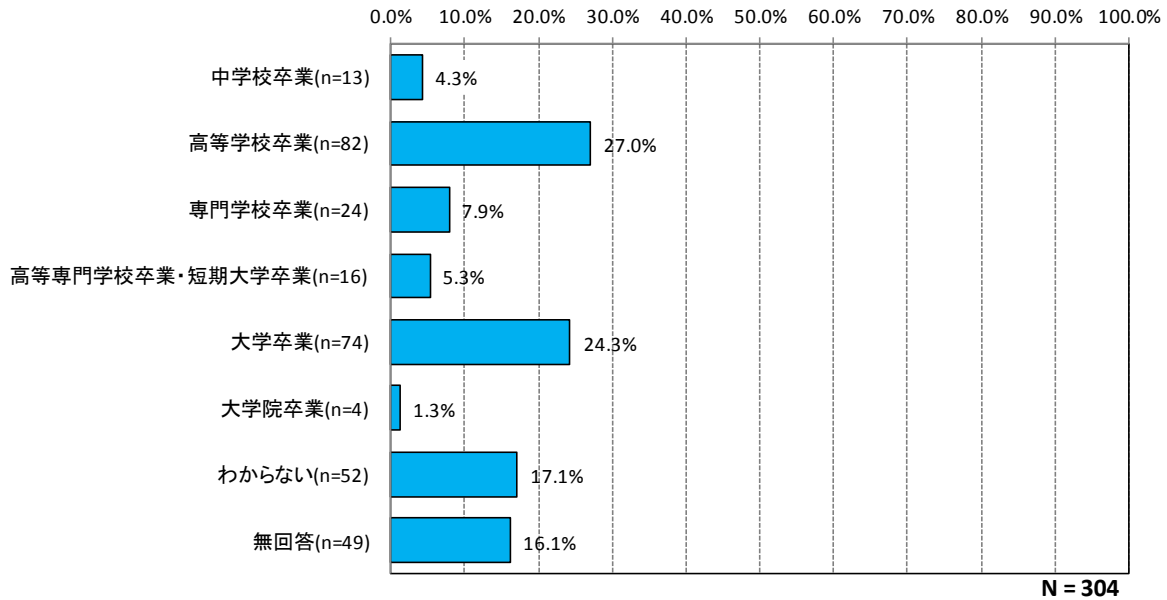
図表 80 回答者の希望としての子どもの進学



(12) 現実的な子どもの進学 (問 39-2)

現実的な子どもの進学は、「大学卒業」が 24.3%、「専門学校卒業」が 7.9%、「高等学校卒業」が 27.0%となっている。また、「高等専門学校卒業、短期大学卒業」が 5.3%、「大学院卒業」が 1.3%、「中学校卒業」が 4.3%となっている。子どもに望む進学(11)と比較して、「大学卒業」が 60.5%から 24.3%へと半分以下となる一方、「高等学校卒業」が 13.5%から 27.0%へと倍増している。「中学校卒業」も 0.3%から 4.3%と増加している。

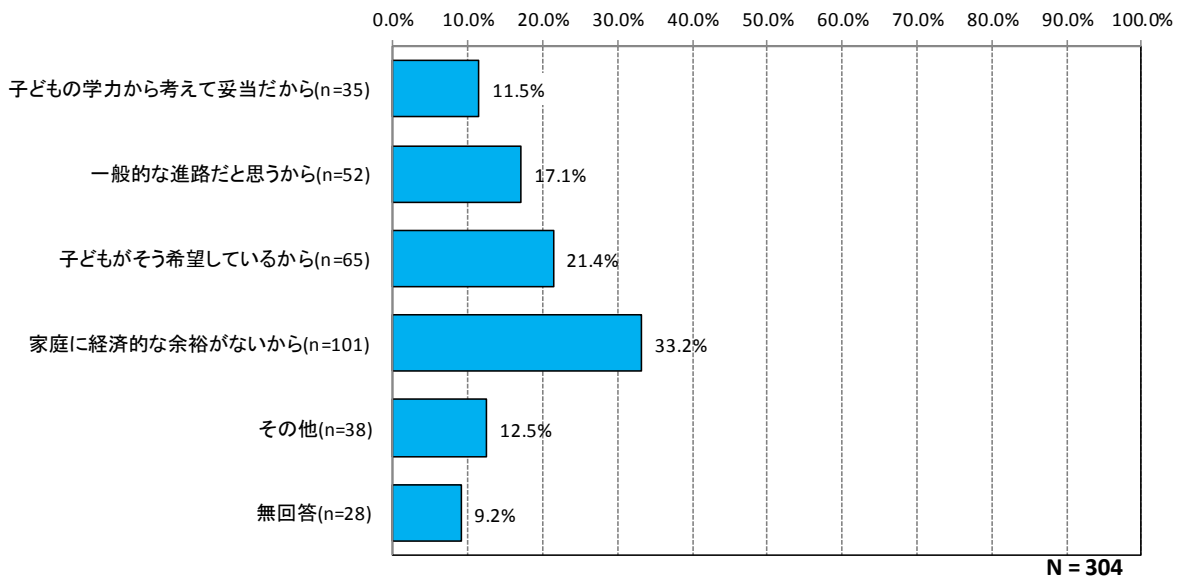
図表 81 現実的な子どもの進学



(13) (12) のように考える理由 (現実的な子どもの進学について回答した理由) (問 40)

「家庭に経済的な余裕がないから」が 33.2%、「子どもがそう希望しているから」が 21.4%、「一般的な進路だと思うから」が 17.1%、「子どもの学力から考えて妥当だから」が 11.5%の順となっている。「その他」が 12.5%となっており、「小さいのでわからない」、「本人が決める」との意見が多い。

図表 82 現実的な子どもの進学について回答した理由

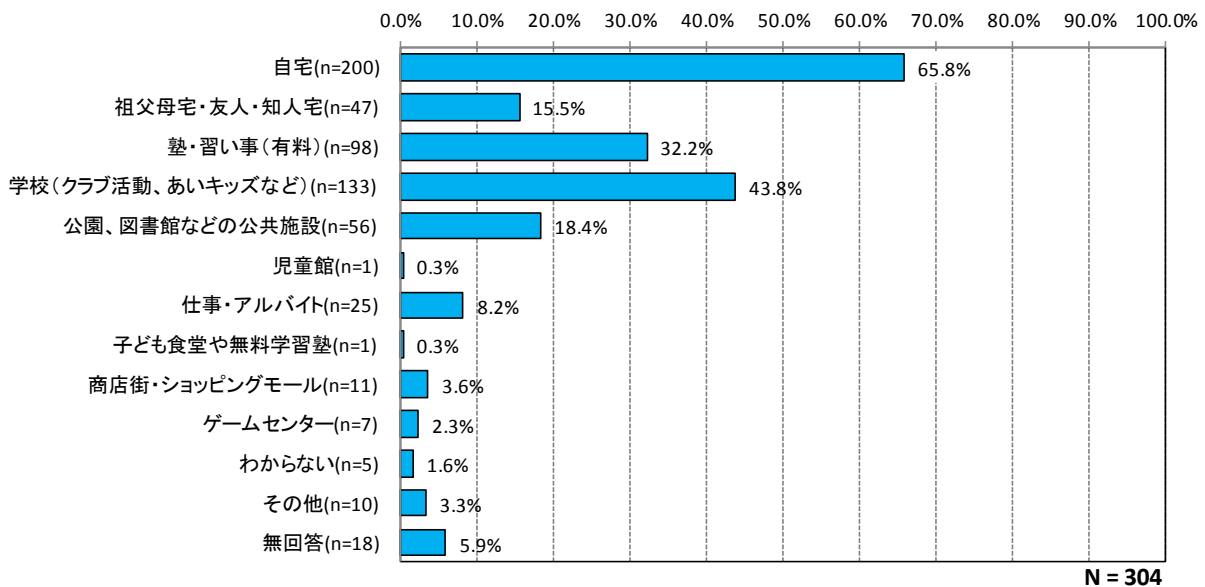


(14) 子どもが放課後に過ごす場所 (問41)

子どもが平日の放課後に過ごす場所は、「自宅」が65.8%、次いで「学校(クラブ活動、あいキッズなど)」が43.8%、「塾・習い事(有料)」32.2%、「公園、図書館などの公共施設」が18.4%、「祖父母宅・友人・知人宅」が15.5%、「仕事・アルバイト」が8.2%となっている。

これを年齢層別にみると、小学生は「学校(クラブ活動、あいキッズなど)」が62.4%と最も多く、次いで「自宅」が54.8%であるのに対し、中学生は「自宅」が76.5%と最も多く、次いで「塾・習い事(有料)」が45.6%となっている(巻末資料図表116)。

図表83 子ども平日の放課後を過ごす場所



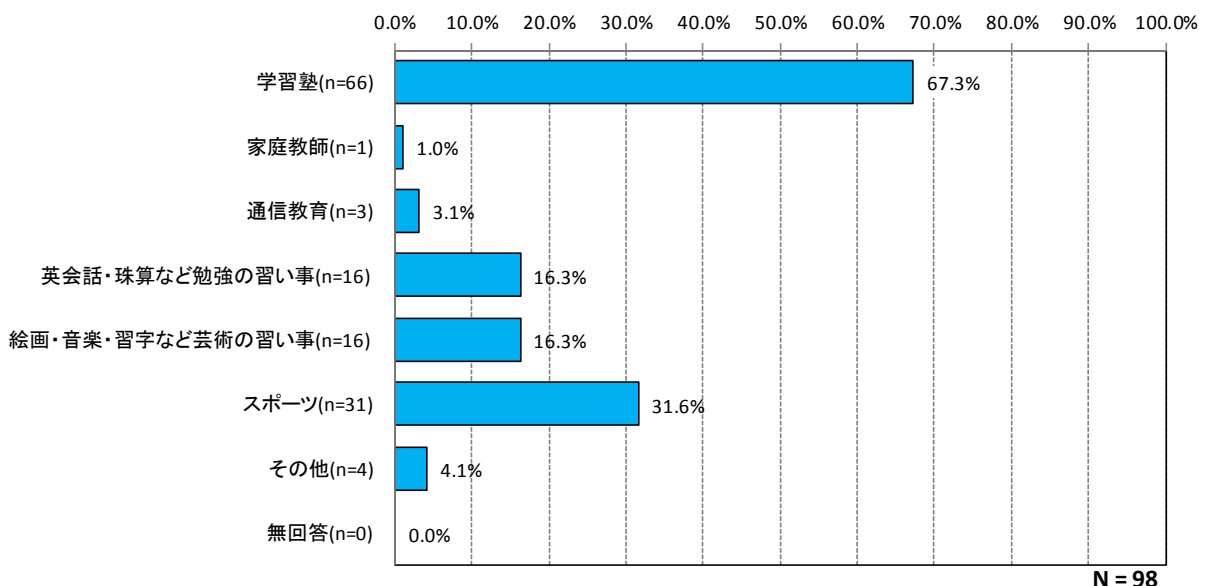
(15) 子どもが通う塾や習い事の種類と費用(合計月額)

子どもが平日の放課後に過ごす場所として、「塾・習い事(有料)」と回答した約3割(32.2%、98人)に通っている塾や習い事の種類と月にかかる費用を尋ねた。

① 塾や習い事の種類(問42-1)

「塾や習い事(有料)」の種類は、「学習塾」が67.3%、次いで「スポーツ」が31.6%、「英会話・珠算など勉強の習い事」と「絵画・音楽・習字など芸術の習い事」がそれぞれ16.3%となっている。

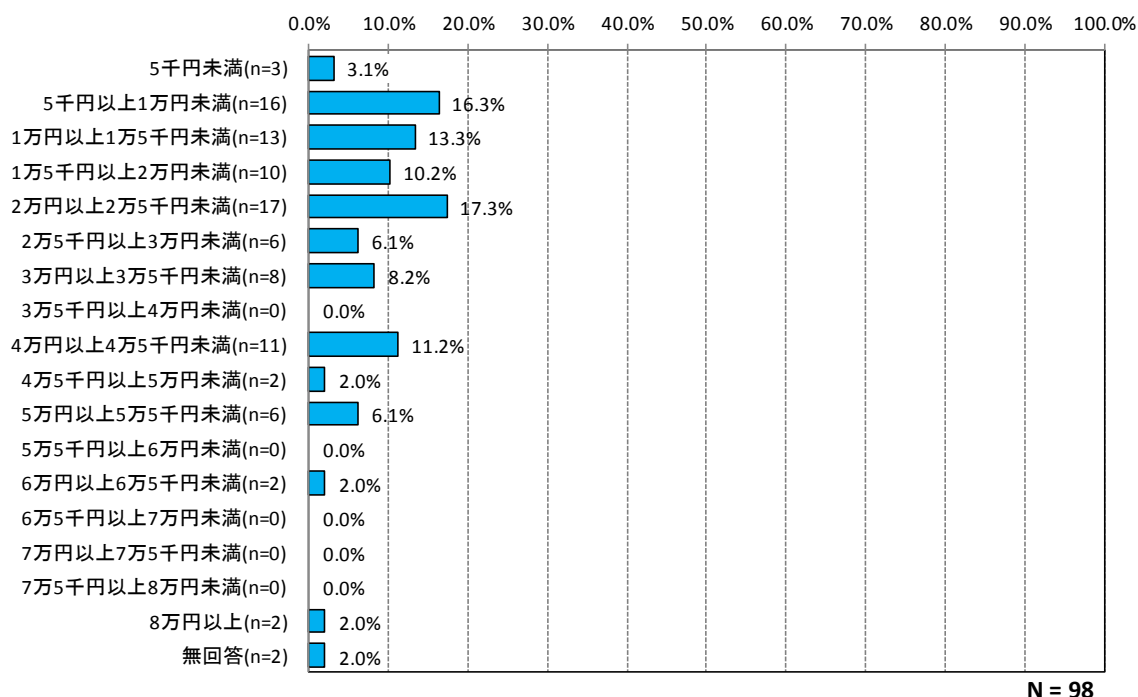
図表84 通っている塾や習い事の種類



② 塾や習い事の費用（合計月額）（問 42-2）

「塾や習い事（有料）」の月額の費用は、平均 30,586 円となっている。

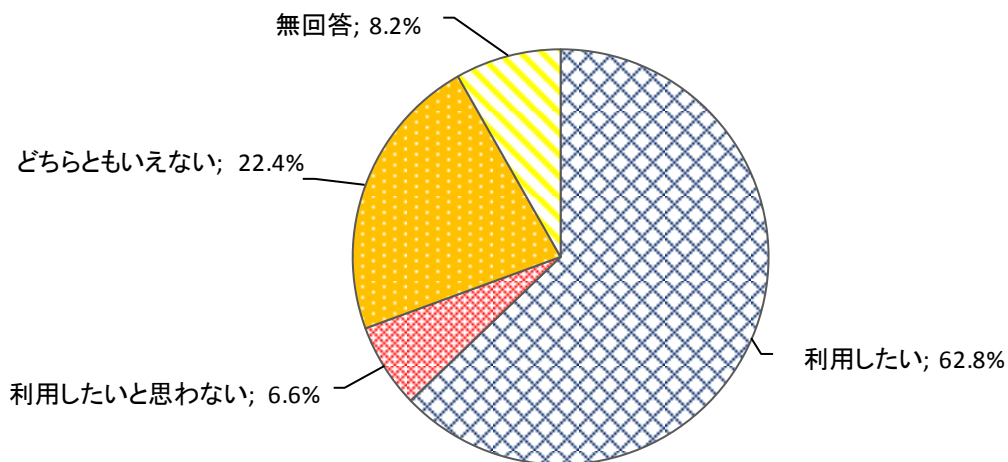
図表 85 合計月額



(16) 子ども食堂や無料学習塾の利用意向（問 43）

子ども食堂や無料学習塾があった場合の利用意向は、「利用したい」が 62.8%と小学生以上の子どもがいる世帯の6割以上が利用したいと考えている。一方、「利用したいと思わない」は 6.6%、「どちらともいえない」が 22.4%となっている。

図表 86 子ども食堂や無料学習塾があった場合の利用意向



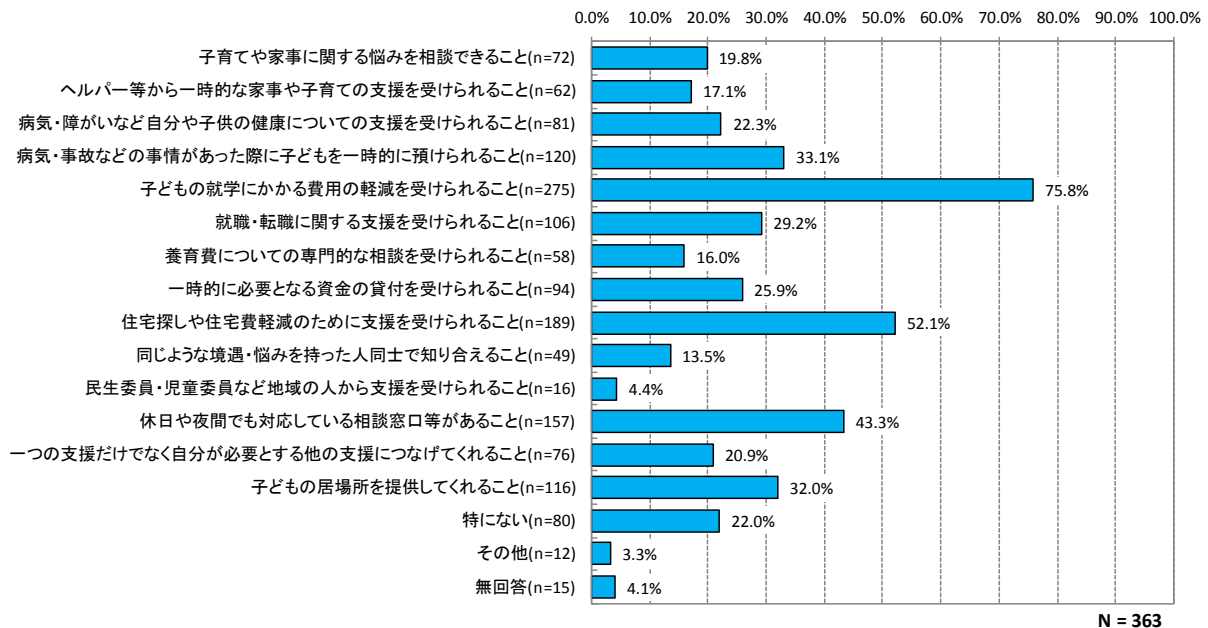
N = 304

## 6. 今後必要と思う支援など

### (1) 必要だと思う支援等（問 44）

「子どもの就学にかかる費用の軽減を受けられること」が75.8%と最も高く、次いで「住宅探しや住宅費軽減のために支援を受けられること」が52.1%、「休日や夜間でも対応している相談窓口等があること」が43.3%、「病気・事故などの事情があった際に子どもを一時的に預けられること」が33.1%、「子どもの居場所を提供してくれること」が32.0%、「就職・転職の支援を受けられること」が29.2%の順となっている。

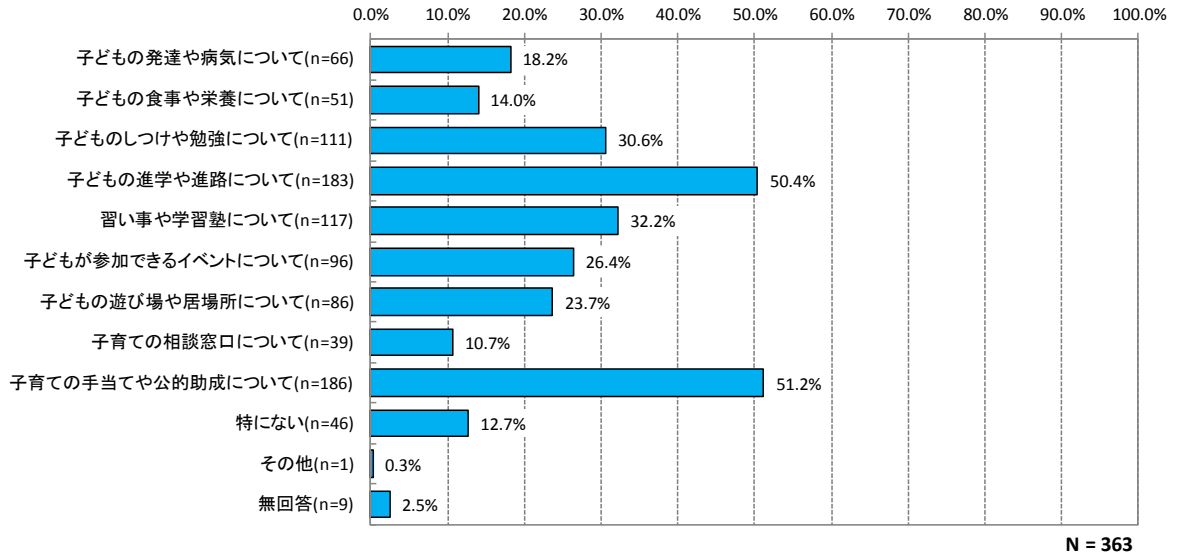
図表 87 必要だと思う支援等



### (2) 子育てについて知りたい情報（問 45）

子育てについて知りたい情報は、「子育ての手当てや公的助成について」の情報が 51.2%、「子どもの進学や進路について」の情報が 50.4%とそれぞれ5割を超えている。次いで、「習い事や学習塾について」が 32.2%、「子どものしつけや勉強について」が 30.6%と子どもの学習、勉強についての情報を求める声が3割を超えている。

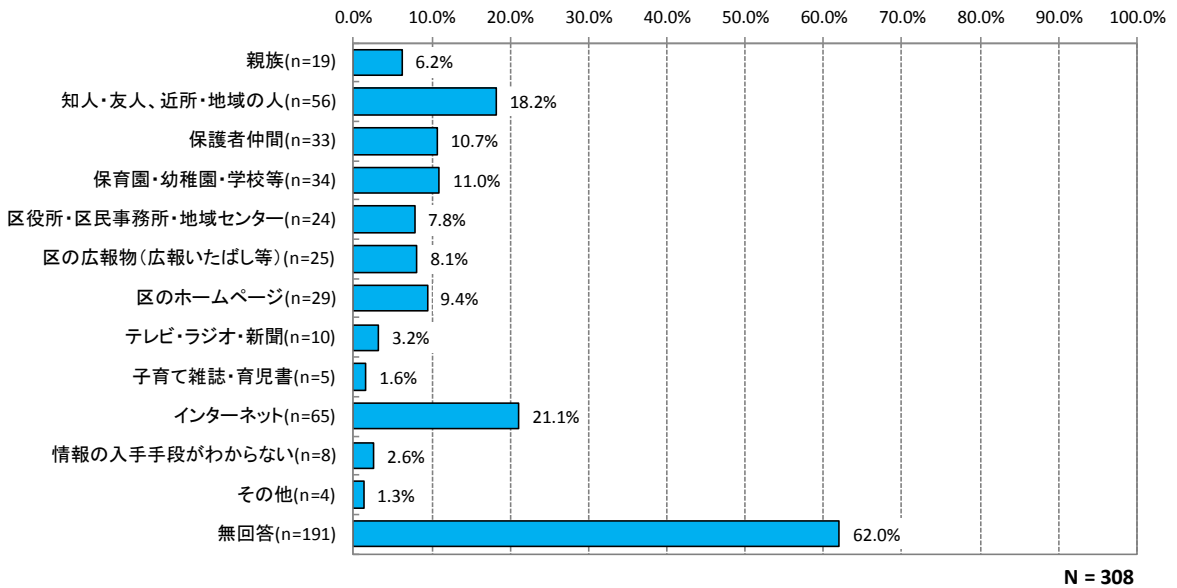
図表 88 子育てについて知りたい情報



### (3) 知りたい情報の入手先（問 46）

知りたい情報の入手方法は、「インターネット」が 21.1%、「知人・友人、近所・地域の人」が 18.2%、「保育園・幼稚園・学校等」が 11.0%、「保護者仲間」が 10.7%、「区のホームページ」が 9.4%、「区の広報物（広報いたばし等）」が 8.1%「区役所・区民事務所・地域センター」が 7.8%となっている。

図表 89 知りたい情報を何から得るか





#### (4) 自由回答（本調査、行政・学校に望むことなど）（問47）

本アンケート調査に関すること、行政・学校に望むことについて、自由に意見を尋ねた。

回答は135件、記入率は37.2%であった。

記載された意見を「経済・就業状況」、「親の生活状況・子育て」、「各種支援制度・窓口・学校」、「子どもの生活状況」、「本調査について・その他」の5つに分類し、集計を行った。

最も高いのが「子どもの生活状況」に関する意見で69件、次いで「経済・就業状況」に関する意見が62件、「各種支援制度・窓口・学校」に関する意見が42件となっている。

なお、意見の中には複数の項目に関する意見が記載されているものもあり、必ずしも意見の合計が回答サンプル数の合計(135件)に一致しない(巻末資料「第4. アンケート自由回答(概要)」参照)。